

一 日中外交関係一般

1 広田三原則承認問題

1

昭和11年1月7日

在中國有吉(明)大使より
広田(弘毅)外務大臣宛(電報)

日中国交調整交渉の進め方に関する吳鼎昌実
業部長との意見交換について

上海 1月7日夜発

本省 1月7日夜着

第五號

二日吳實業部長周作民同伴若杉ヲ來訪シ日支關係打開策ニ
付腹藏ナキ意見交換ヲ爲シタル趣ナルカ其ノ要點御參考迄

(右會見ハ張群ト了解ノ上ナル由)

一吳ヨリ過日有吉大使ト蔣介石及張群トノ會談ニ付日本側
ノ感想ヲ問ヒタルニ對シ若杉ヨリ全然私見ナル旨ヲ前置
シタル上忌憚ナク言ヘハ右會談ノ際支那側ノ態度ニハ鮮
カラス失望セリ元來大使ナル身分ハ一國ノ元首ニ對シテ

モ國事ヲ談スルニ何等差支ナキ筈ナルニ總理格ノ行政院
長カ意見ノ表示ヲ回避シ一々外交部長ノ事務的折衝ニ一
任セントスルカ如キ態度ハ特ニ重要ナル日支關係ノ調整
ニ熱意ヲ缺クカ如キ印象ヲ與ヘ寧ロ不快ニ感シタル次第
ナルカ斯ノ如キ遣方ニテハ折角蔣介石カ自ラ行政院長ニ
乗出シ乍ラ又復糊塗主義ヲ執ラントスルニアラスヤト疑
ハサルヲ得スト述ヘタル處

吳ハ右ハ全然誤解ニシテ日本側ニ右ノ如キ印象ヲ與ヘタ
ルハ遺憾ナルカ實ハ蔣介石ハ軍人ノ事故直接ニ一々外交
案件ヲ持出サレテモ即座ニ回答スルノ用意無キヲ以テ豫
メ外交部長ヲシテ具體的ニ研究セシメタル上之ニ裁決ヲ
與ヘントスルモノニシテ張群ヲ外交部長ニ任命スルニ當
リ外交ハ一切張ニ一任シ蔣自身ニ於テ其ノ責ニ任スル條
件ニテ張ヲ殆ト命令的ニ就任セシメタル經緯モアルニ付
大使ニ對シテモ先ツ張群ヲシテ折衝ニ當ラシメントシタ
ルモノニ外ナラスシテ決シテ糊塗主義ヲ執ラントスルモ

テ現實ニ之ヲ實現シ得ル信用ト能力ヲ有スル者ニアラサレハ其ノ權限ヲ附與スルヲ得ス然ルニ宋哲元一派ハ北支民衆ノ信用モナク又財政經濟等ノ能力ナキ輩ノミニテ之ニ對シ右ノ如キ廣汎ノ權限ヲ認ムルヲ得サルノミナラス其ノ效果ニ付テモ見込ナシ又北支金融財政等ヲ全然中央ヨリ分離獨立セシメトスル考案ノ如キモ或ハ武力ニ依リ一時之ヲ無理押シニ試ミルヤモ計ラレサルモ北支ト全支トノ經濟關係上殊ニ有力ナル北支關係ノ當業者ノ協力ナクシテ成功ノ見込ナク

要スルニ政府ハ北支ニ於テハ日本トノ了解ナクシテ何事モ成就シ得サルコトヲ充分認識シ居ルヲ以テ成ルヘク日本トノ了解ノ下ニ同地方ノ事情ニ即スル施設ヲ行ヒ度キ考ナルモ苟モ支那ノ統一ヲ破ルカ如キ制度施設ヲ認ムルヲ得ス要ハ統一ノ制度ノ下ニ於テ地方的特殊ノ施設ヲ行フノ外ナシト語レリ

四、吳ハ現在ニ於テハ日本出身者ハ日支双方ヨリ苦メラルル困難ナル立場ニアリ唐有壬ノ死ハ其ノ最モ著シキ例證ナルカ日本ト直接關係ナキ歐米派ノ方却テ都合好キ立場ニアルヲ以テ駐日大使タルヲ好ムモノナク其ノ人選ニハ殆

ノニアラス寧ロ汪兆銘時代コソ却テ糊塗主義ニシテ今回ノ新政府ハ實行シ得ヘキモノハ實行シ實行不可能ナルモノハ斷乎トシテ之ヲ拒絶スルノ決意ヲ有スルモノナリト辯明セリ

三、若杉ヨリ蔣介石ノ日支關係調整ノ方針如何ト問ヒタルニ對シ吳ハ蔣ノ考ハ從來ノ如ク個々ノ案件ヲ個別ニ解決セントスレハ次カラ次ヘト意外ノ案件續出シ紛糾スルヲ以テ先ツ日支關係ノ全面ニ亘リ各種ノ問題ヲ具體的ニ檢討シテ根本的調整ヲ計リ之ニ依リテ懸案トナリ居ル事項ヲモ一律ニ解決セントスルモノニシテ例ヘハ福岡上海間ノ航空連絡モ北支航空連絡モ同シク航空事業ナル以上同時ニ解決スルヲ可トスル意見ナリト答ヘタリ依テ若杉ヨリ過般重光次官ノ丁代理大使ニ對スル應酬ト同趣旨ニ依リ先ツ個々ノ懸案サヘ解決ノ決心スアラサル位ニテハ全面的ノ問題例ヘハ軍事協定ヤ經濟合作等ノ如キ廣汎ノ問題ハ到底解決ノ見込無カルヘシト説示セル處吳ハ日本側ヨリ支那側ニ對シ三原則ノ承認ヲ求メラルル以上同原則ヲ實行スヘキ具體案ヲモ日本側ヨリ提出スルヲ順當トスヘク

目下ノ如ク日支双方ニ於テ互ニ疑ヒ合ヒ具體案ノ提出ヲ躊躇スル様ニテハ日支關係ノ改善到底實現ノ日ナカルヘキヲ以テ双方ヨリ淡泊ニ諸問題ヲ提示シ相互ノ疑惑ヲ一掃スルヲ可トス之カ爲ニハ交渉ノ相手ハ勿論外務官憲トスヘキモ日本側ノ委員中ニハ是非トモ軍側殊ニ關東軍ノ代表者ヲ加ヘラルルノ必要アルヘク然ラサレハ三原則ノ如キモ其ノ大部分ハ北支關係ノ事項ナルヲ以テ兩國ニ於テ折角合意成立セル傍ヨリ豫期セサル事件ノ發生ニ依リ事態ヲ紛糾セシムルカ如キコトアリテハ到底日支關係ノ圓滿ヲ期シ難カルヘク現ニ北支ニ於ケルカ如ク中央政府ニ於テハ出來得ル限り北支ノ事情ト日本側ノ希望ニ副フ様最善ノ努力ヲ爲サントスルモ北支日本軍側出先ニテハ一切南京ノ干與ヲ排斥スルヲ以テ手ノ着ケ様ナキ次第ナリト述ヘタリ

三、若杉ヨリ北支ノ實狀ニ即スル爲其ノ實力者タル宋哲元一派ニ對シ曩ニ何應欽ニ對シテ與ヘタルカ如キ權限ヲ與ヘサルノ理由何處ニアリヤト質シタル處吳ハ曩ニ何應欽ニ與ヘタル六項ノ方針ハ何レモ暫定的ノモノニアラスシテ將來永久ニ北支ノ事態ヲ支配スヘキ性質ノモノナルヲ以

ト困リ果テ居ル有様ナリ但シ日華貿易協會ハ昨日支間ノ空氣惡化ニ拘ラス愈實現スル決心ニテ其ノ成立カ一箇月延期セルハ單ニ各地ニ散在スル支那側委員ノ準備整ハサリシカ爲ナリト語レリ

南京、北平、天津へ轉電セリ

2 昭和11年1月22日 在南京須磨(弥吉郎)総領事より 広田外務大臣宛(電報)

広田三原則実行のための具体案提示を張群外交部長要求について

付記一 昭和十一年一月九日付、東亜局第一課作成

「昭和十一年一月八日外務大臣室ニ於ケル討議ノ結果ニ基ク對支外交試案」

二 昭和十一年一月二十日付、東亜局第一課作成

「參謀本部喜多大佐談要領」

三 昭和十一年二月六日付、參謀本部第二部作成
「南京政權ノ日支南京會議提案ニ對スル件」

南京 1月22日後発
本省 1月23日前着

第三六號(極秘)

本二十二日會見ノ際張群ヨリ案ノ定日本ハ日支關係打開ノ直接交渉會議ヲ開催スル積リナリヤト尋ネタルニ付本官ヨリ歸朝中打合せノ趣旨ニ依リ支那側ニ於テ用意出來ナハ帝國大使ト貴部長位トノ間ニ隨時交渉ヲ進ムルノ用意ハアルモ一舉ニ一切ノ具體問題ヲ解決スルカ如キハ先ツ不可能ナルヘキニ付差當ツテハ豫テ原則上贊成ヲ得タル三原則ヲ確認スルコト必要ナルト共ニ之ト同時ニ日支双方ノ空氣ヲ緩和スル爲懸案殊ニ航空聯絡問題ノ如キヲ急速解決スルコト先ツ以テ必要ナルヘシト詳細我方ノ立場ヲ申入レタルニ張本官歸朝前ヨリハ餘程熱心ニ耳ヲ傾ケ居タルモ今航空問題ノ解決ノ如キハ時機ニアラスト言明シ

三原則實行ノ具體案ヲ執拗ク求メタルニ付本官ヨリ三原則ハ兩國關係打開ノ根本精神ニシテ特ニ具體的ニ說示シ得ルカ如キモノニアラス寧ロ之ニ依リ懸案解決其ノ他各般ノ具體問題ヲ處理スヘキ方針ナレハトテ之ヲ的確ニ確認スルコトヲ要求セルニ同席セル高宗武ヨリ曩ニ渡日セル經濟使節團ヨリ廣田外相ニ對シ三原則ハ漠然ニ失スヘキニ付之カ具體案ノ呈示ヲ申入レタルニ同大臣ハ承諾セラレタル經緯ア

ヲ開催シタシトノ趣旨ヲ提言セシメタリ

ニ右南京側態度ノ底意ハ概ネ左ノ如ク解セラル

(一)日支全般關係ノ根本的調節ヲ目的トスル大會議開催セラレ折角交渉中ナルコトヲ口實トシテ北支問題解決方ニ關スル我方ノ追求ヲ緩和、阻止シ又ハ北支地方ニ於ケル我方ノ内面的工作ヲ抑制、阻止セムトス

(二)前記大規模ノ交渉開催ニ依リ實際上三原則問題ヲ遷延セムトス

(三)三原則ヲ或程度實行スル代リニ不平等條約撤廢問題等ニ付原則丈ケニテモ日本ノ言質ヲ取付ケ或ハ北支問題解決方ニ關スル日本ノ要望ニ或程度「ミート」シツツ其ノ間北支停戰協定ヲ廢止又ハ改訂セシメムトス

又前記南京側ノ底意ニモ顧ミ本件ニ關シ此ノ際我方ハ左記ノ如キ態度ニ出ツルコト可然

(一)南京側カ我方ニ對シ日支關係打開ノ直接交渉ヲ開催セムコトヲ提示シ居ルニ對シ我方カ先方ノ底意ヲ警戒スルノ餘リ之ニ應セサルニ於テハ日本ハ支那カ直接交渉ノ意アルニモ拘ラス之ヲ無視シツツ勝手ニ侵略的ノ行動ニ出テツツアリトノ惡宣傳ヲ受ケ世界輿論ニ對スル

リト述ヘタルニ付本官ハ右ハ三原則ヲ具體的ニ詳細説明スル意味合ニ外ナラス結局三原則ハ日支國交ノ根幹タル所以ヲ詳細説明セルニ張ハ本日ノ説明ニ依リ三原則ヲ明確ニスルヲ得タレハ何レ新大使ノ御來任頃迄篤ト研究スヘシト答ヘタルニ依リ本官ヨリ更ニ何レニセヨ懸案解決ヲ決心スルコト先決問題ナル旨繰返シ述ヘ置キタリ

(付記一)

昭和十一年一月八日外務大臣室ニ於ケル討議ノ結果ニ基ク對支外交試案

(十一、一、九、亞一)

一、先般來有吉大使等ニ於テ南京側ニ對シ廣田大臣三原則ノ承認、實行ヲ要請セルニ對シ南京側ハ右三原則ニ異存ナキモ三原則ニ止ラス此ノ際日支全般關係ノ根本的調節ヲ計ルコトトシテ日支交渉ヲ開始シ度キ旨ヲ回示セリ一方南京側ハ丁代理大使ヲシテ客年十二月二十七日ニ至ル迄數回ニ亘リ我方ニ對シ日支關係打開ノ爲日支交渉ヲ開始シ度而シテ右交渉ノ爲南京ニ於テ相當大懸リノ日支會議

(欄外記入)

我方ノ立場ヲ著シク不利ナラシムル虞アルニ付本件直接交渉ニ應スルコト

(二)但シ右交渉ヲ丁代理大使提言ノ如ク會議體トナスコトハ前記南京側ノ底意ニ乘セララル虞アルニ付重光次官ノ丁代理大使ニ對スル應酬ノ趣旨ニ依リ原則トシテ在支帝國大使ト南京政府外交部長トノ間ノ普通ノ外交手段ニ依ル交渉トスルコト

(三)右交渉ニ際シ南京側カ北支自治問題ニ言及シ同問題ニ關スル我方出先ノ内面的工作ノ抑制ヲ要求スル場合ニハ我方ハ從來通りノ方針ニ依リ該問題ハ支那ノ内政問題ニシテ支那自ラ解決スヘキモノナリ(但シ北支地方ハ滿洲國ト接壤シ帝國トノ利害關係特ニ密接ナルヲ以テ我方ハ同地方ノ事態ニ對シ常ニ重大ナル關心ヲ有ス從テ我方ハ必要ニ應シ忠告乃至警告ヲナスコトアルヘシトノ留保ハ勿論之ヲ維持ス)トノ趣旨ヲ以テ右南京側ノ要求ニ取合ハサルコト、一方北支ニ於ケル我方ノ内面的工作ハ世界ノ形勢及中南支ニ於ケル動向等ヲ參酌シテ緩急ヲ制シツツ逐次之ヲ進ムヘク而シテ右工作ト併行シ南京側ト折衝スルコト却テ我方ニ有利ト認メ

ラルル場合又ハ問題ニ關シテハ前記留保ニ基キ忠告又ハ警告ノ形ニ依リ事實上必要ノ折衝ヲ行フコト(南京側カ北支停戰協定ノ廢止又ハ改訂等ヲ申出テ來ルニ對シテハ從來通右廢止又ハ改訂ノ爲ニハ先ツ以テ支那側カ滿洲國ヲ正式ニ承認シ且滿支關係ニ關スル各般ノ條約協定ヲ成立セシムルコトヲ要スル處支那側ニ右様ノ用意アリヤヲ反問ス)

四本件交渉ニ於テ南京側ハ我方ニ對シ三原則實行ノ具體案提出ヲ求ムヘキ處右ニ對シ我方ハ三原則ハ日支關係打開ノ規準タルヘキ根本精神ニシテ今後該精神ニ依リ懸案ノ解決及日支双方ヨリ必要ニ應シテ提起セラルヘキ各般ノ具體問題ノ處理ヲ順次ニ計リ行カムトスルモノナリ、之ニ反シ此ノ際一切ノ具體問題ヲ提起シ一舉ニ處理解決スト云フカ如キハ云フヘクシテ行ハルヘキコトニ非ス、即チ右ノ如キハ本件交渉ヲ口實トシ實際上日支關係ノ打開ヲ遷延セムトスルモノニ外ナラストノ理由ヲ以テ之ヲ排シ先ツ以テ三原則ヲ文書ヲ以テ確認セシムルニ努ムルコト(三原則文書確認方交渉中ト雖之ト併行シ我方ノ必要ト認ムル具體問題ニ付テハ三

原則ノ精神ニ依リ處理スヘキコトヲ主張シ解決ヲ計ルヘキコト勿論ナリ)

(五)本件交渉ニ於テ南京側ハ所謂支那側三要綱ノ承認實行ヲ要望シ來ルヘキヤニ察セラルル處南京側カ治外法權撤廢等具體問題ヲ提起スルニ對シテハ重光次官ノ丁代理大使ニ對スル應酬振等ノ趣旨ニ依リ斯種問題提起ノ尙早ナルコトヲ以テ之ヲ拒ケ又具體問題ハ暫ク措キ右三要綱ノ原則的ニテモ承認セラレ度ト申出テ來ル場合モ大體同趣旨ヲ以テ右ニ應對スルコト(支那側三要綱ノ精神ハ我方三原則中ニ含マレ居ルコトヲ必要ニ依リ說示スルコト可然)

(欄外記入)

一月十六日東京發歸任ノ須磨總領事ニ托シ、上海及南京ニ送濟太田

(付記二)

(十一、一、二〇 東亞一課)

參謀本部喜多大佐談要領

一月二十日喜多大佐(楠本及影佐中佐同行)來省ノ際上村事務官ニ述ヘタル要領左ノ通り

一、對支外交ニ關スル守島私案(十一、一、九ニ關スル件軍トシテハ右守島私案ニ對シ大体ニ於テ異存ナシ。但シ氣付ノ點左ノ通り

(イ)右私案三ノ(一)ニ於テ我方カ支那側ノ直接交渉開始提議ニ對シ其ノ底意ヲ警戒スルノ餘リ之ニ應セサルニ於テハ支那側ノ惡宣傳ヲ受ケ世界輿論ニ對スル我方ノ立場ヲ著シク不利ナラシムル虞アルニ付本件直接交渉ニ應ストアル處日支直接交渉ニヨリ支那側ヲシテ我方主張ノ三原則ヲ認メシムルコトハ我方トシテ積極的ニ働キ掛ケ然ルヘキ筋合ナルヲ以テ直接交渉應諾ノ理由トシテ世界輿論ヲ恐ルトノ消極的理由ヲ掲クルハ餘リニ退嬰的ナリ。寧ろ堂々積極的態度ヲ以テ臨ムヘキナリ。

(ロ)四、末尾ニ依レハ「先ツ以テ三原則ヲ文書ヲ以テ確認セシムルコト」トアルモ支那側ハ或ハ文書確認ヲ承知セサルヤモ知レス。從テ文書ヲ以テ確認セシムルコトカ交渉ノ全目的ニ非スシテ之ニ依リ交渉ヲ遷延シ北支其他ノ事態ノ推移ヲ見定メントノ底意アルモノトノ諒解ノ下ニ之

ニ贊成ス。

(尙)三原則ノ確認ヨリ進テ具體的問題ニ入リタル上ハ南京政府ノ軍事顧問僱聘、武器賣込問題等當然問題トナルヘシトノ話出テタル處喜多大佐等ハ支那側カ三原則ヲ承認シ排日ヲ止メ親日的トナラハ、軍トシテモ軍事顧問ヲ入レ若ハ武器賣渡ヲナシ差支ナキ譯ナル旨述ヘ居タリ)

二、冀察政權トノ防共軍事協定締結問題

喜多大佐ヨリ關東軍ニ於テハ冀察政務委員會トノ間ニ防共軍事協定訂結ノ意向アル旨極秘ノ内話アリ。上村ヨリ北支問題ニ就テハ焦ルコトハ禁物ナリ目立タサル様一步一步固メ行クコト肝要ナルト共ニ常ニ山東、山西モ合流シ得ル様考慮ニ入レツツ進ム必要アリ、殊ニ協定訂結ノ如キコトハ豫メ十分外務側ト協議スル要アル旨述ヘタルニ

喜多大佐ハ右方針ニハ全然同感ニテ万事外務側ト連絡スヘク協定訂結問題ノ如キ具體化セハ十分協議スル積リナリ、目下ノ處ニテハ共匪山西ニ侵入ノ虞モアリ、冀察側ト防共協定ヲ訂結セハ山西側ヲ共匪問題ニテ冀察側ニ引キツケ易クナルヘシトノ考モアル次第ナルカ去リトテ支那ノ共匪討

伐ニ帝國陸軍カ出動スルカ如キコトハ出來得サルニ付我方ノナシ得ル所ハ結局兵器ノ供給位ヨリ考慮シ得ス、其レモ不安定ナル冀察委員會ト帝國陸軍カ協定スルハ如何カトモ考ヘ居ルモ、一應御話シ置ク次第ナル旨述ヘ居タリ

編 注 付記一の試案を若干の字句修正の上、一月十四日に軍側に送付したもの。

(付記二)

南京政權ノ日支南京會議提案ニ對スル件

昭一一、二、六

參謀本部第二部

方 針

南京政權ノ提案ニ對シ敢ヘテ之ヲ拒否セス其意向ヲ適當ニ誘導シツツ其間北支工作ヲ發展セシメ以テ一層有利ナル機會ヲ補足シテ直接交渉ニ依リ國民政府(政策機構等)ノ是正ヲ強要シ以テ兩國關係ノ調整ヲ期ス

要 領

一、大本外務省案(守島私案)ニ據リ南京側ヲ誘導シ少クモ蔣

政權ヲシテ逐次左記各項ノ決意ヲ促ス

1、蔣介石自ラ眞ニ解決ノ衝ニ當ル

2、既成事實ノ承認ヲ確言ス(滿洲國承認ヲ含ム)

3、國民黨各機關ノ改變爲シ得レハ之ヲ撤消ス

4、秘密私黨的諸團體結社ノ解散ヲ實現ス

5、國民政府ノ對内外政策ヲ是正ス(歐米依存ヨリ對日依存ニ轉換スル具體的政策ニ着手ス)

二、三原則ニ關スル具體的主要事項ニ亘リ支那側ニ提示スヘキ交渉案ヲ準備スルト共ニ支那側ヨリ提議スヘク豫想セラルル事項ニ對シ對案ヲ策定シ以テ爾後ノ本交渉ヲ準備ス

三、既定ノ方針ニ基キ冀東、冀察新政權ヲ支持強化シ遂ニ之ヲ合体セシメ北支五省ノ合流ヲ期ス

四、國內外ニ對スル宣傳ヲ統制スルト共ニ現時支那國ノ抱キアル對日疑惑ヲ一掃スルノ策ヲ講ス

3 昭和11年1月23日

在南京須磨總領事より
広田外務大臣宛(電報)

中国が日本側三原則を承認したとの広田外相

の議會演説は事實ではない旨中国外交部が非公式ステートメント発表について

付 記 昭和十一年一月二十二日付

右ステートメント仮訳文

南京 1月23日夜発

本省 1月23日夜着

第三八號

閣下ノ貴族院ニ於ケル外交演説ニ關シ外交部「スポークスマン」ハ二十二日夜大要左ノ如キ「ステートメント」ヲ發表シ本二十三日各紙ヲシテ一齊ニ之ヲ掲載セシメ居レリ廣田外相ハ貴院ニ於ケル演説ニ於テ對支三原則ハ既ニ支那側ニ於テモ同意ヲ表シ居レリトテ其ノ間僞國承認ノ意ヲモ含マシメ居ル處所謂三原則ハ内容漠然トシテ(三原則ヲ掲載ス)商議ノ途ナキヲ以テ我方ヨリ具體案提出ヲ求メタルニ對シ日本側ヨリ未タ何等ノ提示ナキ次第ニシテ支那カ既ニ同意セリト云フカ如キハ全ク事實ニアラス最近張部長就任ト同時ニ日支兩國ハ必ス外交ノ常道ヲ經テ交渉ヲ行ヒ以テ兩國關係ノ根本的調整ヲ期スヘキ旨日本ニ提言セル處廣田外相ハ同演説ニ於テ本提議ニ贊意ヲ表シ且ツ不脅威、不

侵略及國交ノ常態化ヲ提唱シ居リ我方ノ主張ト一致シ居レハ今後此ノ途ニ從ヒ交渉ヲ進ムレハ兩國ノ關係ハ自ラ改善シ得ヘシ

支、北平、天津へ轉電セリ

支ヨリ上海へ轉報アリタシ

編 注 『日本外交文書』昭和期Ⅱ第二部第五卷第一文書付記。

(付記)

民國二十五年一月二十二日外交部非公式發表(假譯文)外交部「スポークス、マン」ノ日本廣田外相演説中ノ三點ニ關スル説明
路透通信ハ日本外務大臣廣田ハ日本貴族院ニ於テ外交方針ヲ演説シ對華三原則ニ言及シテ中國カ已ニ同意ヲ表シタリト述ヘタル旨報道シ居レルカ其中一個所尙僞國承認ヲ包含スル意味アリ記者ハ所謂三點ナルモノニ付各新聞ノ報道頗ル差異アルニ鑑ミ外交部「スポークス、マン」ヲ往訪シ眞相ヲ究明シタル處其説明ニヨレハ廣田ノ所謂對華三原則ナルモノハ客年九月中廣田外相カ我蔣大使ニ對シ提出シタル

三點ヲ指シ述ヘタルモノナルヘシ。然ルニ我方ハ中日關係カ双方ノ眞摯ナル努力ニ不拘、年來屢々紛糾ヲ生シ實ニ一波未タ收ラサルニ一波又起ルノ概アルニ鑑ミ、我政府ハ客年秋日本政府ニ對シ中日關係改善ノ基本辦法ヲ提出シタル處廣田外相ハ蔣大使ニ對シ中國ノ提出セル三辦法ハ原則上不可ナルニ非ルモ中國カ先ツ左記三點ニ同意スルコトヲ要請セサルヲ得サル旨表示セリ

第一、中國ハ絕對ニ以夷征夷政策ヲ放棄スヘキコト

第二、中國ハ必ス滿洲國ノ事實的存在ヲ尊重スヘキコト

第三、中國北邊一帯地方ニ於ケル赤化防止ニ付中日ハ有效ナル辦法ヲ共商スヘキコト

右ニ對シ我方ハ第三點ノ措辭、余リニ抽象的ニシテ商議スルニ由ナカリシヲ以テ日本側ニ對シ其具體的内容ノ提示方ヲ要求シタルニ日本側ハ今尙之ヲ提出スルコトナシ。廣田外相カ演說中中國カ已ニ同意シタル旨ヲ述ヘタルハ甚タ事實相違ナリ。

最近張部長ハ就任後直ニ中日兩國ハ必ス正常辦法ニ依リ外交機關ヲ通シテ交渉ヲ進行セシムヘキモノニシテ斯クテ兩國關係ノ根本的調整ヲ爲シ得ヘキコトヲ期待スル旨提議シ

ムモノナルヘキモ往電第五號吳鼎昌ノ話等ト照合シ或程度迄政府筋ノ意嚮ヲ反映スルモノト存セラル

一、一八後ノ汪精衛ノ對日外交ハ總テ受動的、分裂的、無軌道のナリシ爲失敗シタルカ自分カ外交部長ニ就任セル以上今後ハ自動的、全體的、正軌的ノ三方針ニ依リ處理シ度キ考ナリ而シテ今後ハ日支双方トモ軍人、政客、領事等ハ絕對外交ニハ容喙セシメサル積リナリ

二、日本側ニテハ我對日政策ヲ以テ以夷制夷策トシテ常ニ排斥シ居ルモ日本コソ常ニ支那各勢力ヲ操縱シ以華制華ノ策ニ出テ居レリ

三、從來ノ對日外交ハ總テ暗中取引ニシテ非公開的ナリシカ自分ハ飽迄正式のニ公開的ニ之ヲ行ハントス

四、廣田外相ハ昨年ノ議會演說ニ於テ不侵略、不脅威ヲ以テ對支外交ノ基調トスヘキ旨強調シタルカ同年二月ノ蔣介石ノ日本記者ニ對スル談話及汪院長ノ談話ハ何レモ右ニ響應セルモノニ外ナラス日支外交ハ九、一八後此ノ時期ニ於テ初メテ一曙光ヲ見出タシ得タル感アリタルモ五月ニ入り華北問題發生セリ右ハ日本外務省ト軍部トノ行動ノ不一致ヲ證明スルモノナリ

タルカ現ニ廣田外相ハ其議會演說中此提議ニ贊意ヲ表シ且重ネテ隣邦ニ對スル不脅威不侵略ノ根本政策ヲ闡明シ極力兩國國交ノ常態化ヲ希求シ兩國利害ノ調整ヲ計ルヘキ旨ヲ述ヘタルコトハ即チ我方ノ主張ト何等背馳スルモノニ非ルヲ以テ今後此ノ方針ニ從ヒ交渉ヲ進行スルニ於テハ兩國關係ハ自ラ改善セラルヘシ。

昭和11年1月23日 在中国有吉大使より
広田外務大臣宛(電報)

日中国交調整交渉や三原則問題に関する張群の意見について

上海 1月23日夜発
本省 1月23日夜着

第四一號

上海各界代表十名(黃炎培、錢新之、鄒秉文、郭秉文、桂中樞)ハ十九日午前九時ヨリ外交部ニテ張群ト中日外交問題ニ關シ意見ノ交換ヲ爲シタル由ナルカ二十一日ADカ黃ヨリノ聞込トシテ館員ニ内報セル張群ノ談話一部要領左ノ通り右ハ有識階級ノ意嚮ヲ參酌セルADノ意見ヲ多分ニ含

一、日本側提示ノ三原則ニ對シ日本側ニテハ支那側力之ヲ接受シタルモノノ如ク考ヘ居ル處右三原則タルモノハ内容空疎ニシテ具體的方法ナキヲ以テ支那側トシテハ未タ之ヲ接受シタル覺ナシ斯ク言ヘハ何故ニ支那側力接受セリトノ日本側宣傳ニ對シ政府トシテ之カ更正ノ措置ニ出テサルヤトノ疑問ヲ抱ク向アルヘケンモ例ヘハ華北ニ於テ經濟合作シ度シトノ提議ニ對シ眞逆合作ハ御斷リナリト言ヒ難ク又赤匪ノ共同防衛ノ提議ニ對シテモ亦合作ハ嫌ナリト言フ譯ニハ行カサルニアラスヤ

二、今回ノ日支會議ハ昨年王寵惠カ東京ニテ提示セル三方針即チ相互主權ノ尊重、相互友誼ノ維持及外交ヲ常道ニ復スルコトノ原則ニ則リ支那側ヨリ進ンテ提議セルモノナル處此ノ會議ヲ機會ニ外交ハ外交官ノ手ニテ行ヒ軍人、政客ハ一切干與セシメサル先例ヲ作り度キ考ナリ本會議ニ於テ日本側提示ノ三原則ノ具體化ヲ計リ度キ處差當リ支那側トシテハ其ノ内容トシテ華北自治運動及日支懸案ノ解決ヲ始メ中國ノ農業ト日本ノ工業トヲ結着クル經濟合作問題、關稅問題、航空問題等ノ解決ヲモ考慮シ居リ是等ニ關シテハ具體的提案ノ用意アリ又日本側ヨリ提案

アル場合ニモ之ニ答へ得ル準備出來居レリ
北平、南京、天津へ轉電セリ

5 昭和11年1月23日

在中国武藤(義雄)大使館一等書記官より
広田外務大臣宛(電報)

広田外相の議會演説に批判的な中国紙報道振
りについて

北平 1月23日夜発

本省 1月23日夜着

第三二號

二十三日ノ北平晨報ハ廣田外交演説ノ感想ト題シ大要左ノ
通り論シ居レリ

廣田外相ハ議會演説ニ於テ對支政策ニ關シ

(一)支那從來ノ非友好的行爲及政策ノ拋棄

(二)支那ノ滿洲國承認

(三)赤化共同防止

ノ三點ヲ擧ケ居ル處昨年廣田外相カ不脅威不侵略ノ原則ヲ
聲明セル際ハ相當ノ好感ヲ以テ迎ヘラレタルカ其ノ後ノ事

6 昭和11年1月23日

在広東河相(達夫)総領事より
広田外務大臣宛(電報)

広田外相の議會演説および中国外交部非公式ス
テートメントに關する中国紙報道振りについて

広東 1月23日夜発

本省 1月23日夜着

第二六號

閣下ノ議會演説原稿ハ當方ニ遲着シタル爲發表ニ由無カリ
シカ二十三日ノ當地各紙ハ何レモ南京路透電報ニ依リ右演
説ノ概要ヲ報道スルト共ニ外交部「スポークスマン」ノ談
トシテ外相ノ掲クル原則ハ措辭空漠ニ過キ之ニ從ヒ商議ス
ルニ由ナキヲ以テ支那側ニ於テハ其ノ具体的内容ノ提示ヲ
要求シ居レルモ日本側ハ未タ之ニ答フル所無シ日本外務省
ハ右原則モ既ニ支那側ノ贊同ヲ得タルモノナル旨述ヘ居ル
モ右ハ全ク事實ニアラス更ニ不脅威、不侵略ノ原則ニ至リ
テハ將ニ支那ニ於テ主張セントスル所ナリ云々ノ旨掲ケタ
ルカ同日國民日報ハ右演説ニ對シ論説ヲ掲ケ廣田外相ノ議
會演説ハ昨年度ノ夫レニ比シ措辭穩和ナルカ右ハ果シテ中
日關係ノ好轉ヲ暗示スルモノナリヤ唯日本外交ハ文武兩方

實ハ全ク之ヲ裏切り北支ニ付テ見テモ日本ノ脅威ト侵略ハ
前年ニ百倍シ外相ノ右聲明カ外交辭令ニ過キサリシコトヲ
暴露セリ日本ニ果シテ日支關係調整ノ誠意アラハ先ツ其ノ
對支行動ヲ統一シ然ル後諸般ノ協議ニ入ルヘシ若シ依然ト
シテ脅威侵略ノ政策ヲ堅持シテ支那ニ臨ムニ於テハ支那人
ハ毫モ日本ヲ信セス假令幾何ノ條約ヲ締結スルモ何等效果
ナカルヘシ前記廣田外相提言ノ第一ハ主客顛倒認識不足ノ
甚シキモノ第二ハ支那ノ到底承認シ難キ所第三ハ支那ノ内
政問題ニシテ日本ノ干涉ヲ容ルヘキ筋合ニアラス支那ノ共
産運動ニ對シテハ支那自身有效ナル防遏手段アリ日本ノ心
配ハ無用ナリ支那今日ノ大患ハ共產黨ニアラスシテ侵略ニ
アリ支那現下ノ努力ハ如何ニシテ侵略ヲ防止スルカニアリ
侵略ヲ防止シ得テ初メテ支那存立ノ途開カルヘシ吾人ハ日
本ノ政治家、外交家カ極東ノ大勢世界ノ動向ニ對シ明確ナ
ル認識ナク爲ニ其ノ對支政策カ邪道ニ陥リ尙未タ反省セサ
ルヲ見テ誠ニ遺憾ニ堪ヘサルモノナリ

支、北平、南京、天津へ轉電セリ

面ニ於テ行ハレントシ外務省ノ對支外交ハ往々ニシテ軍人
ノ横暴的干涉ヲ受ケ其ノ思フ所ヲ述フルニ由無シ東亞ノ大
局ヨリ觀察シ中日カ何日迄モ仇敵ノ狀態ニアルコト兩國ニ
取り極メテ不利

ナリト爲ス廣田外相ノ所言ハ誠ニ其ノ通ニテ吾人ノ同感ス
ル所ナリ外相ハ右事實ヲ切實ニ認識センコトヲ吾人ニ對シ
要求シ居ルカ實ノ所我方コソ寧ロ日本人就中日本政治家ニ
比シ遙ニ夙ニ認識セルモノナリ唯同演説中滿洲國ノ承認ニ
關シテハ今日中國中一人トシテ承認スルモノナカルヘシ如
何ナル方式ヲ以テスルモ苟モ國土ヲ割讓スルカ如キハ中國
ノ最後ノ立場タルニ付此ノ點日本政治家ニ對シ深キ了解ヲ
切望ス更ニ反共問題ニ付テハ之レ元來中國ノ國策ナルモ反
共ト反蘇トハ自ラ別事ナリ現代的國家創造ノ過程ニアル中
國ハ如何ナル友邦ニ對シテモ善隣ヲ以テ外交交渉ノ根本方
策ト爲スモノナリ此ノ點モ日本政治家ノ切實ナル認識ヲ望
ム云々ト論シタリ

支、北平、在支各總領事へ轉電セリ

支ヨリ上海へ轉報アリタシ

7 昭和11年1月25日 在南京須磨總領事より
広田外務大臣宛(電報)

困難な内政事情から蒋介石行政院長が対日強
硬方針に転じるとの観測について

南京 1月25日後発
本省 1月25日夜着

第五一號

客年往電第一四一四號ニ關シ

本官歸任後各方面トノ接觸ヨリ得タル感想ハ曩ニ歸朝ノ際
報告セル所ト異ラサル處其ノ後特ニ右感想ヲ強ムル事實左
ノ通(吳震脩、黃濬等ノ談話ニ基クモノ多シ)

(一)宋哲元ハ其ノ後日本側ノ意嚮ニ基キ北支地方當局ヲ漸次
任免スル等冀察委員會ニ賦與スヘカリシ權限ヲ越エ居ル
コト漸次判明シ來レルニ付蒋介石ハ宋哲元部下ノ軍隊ニ
自己ノ直系分子ヲ入レ内部的分解作用ヲ企圖スルト同時
ニ一日モ速ニ外交ノ常道ニ依リ會議其ノ他ノ方法ニテ交
渉ヲ開始セン

(二)幣制維持力銀價暴落ニ依リ困難ヲ加ヘ來レルト同時ニ最
近三箇月間ハ政府經費ノ毎月約二千萬元ニ上ル不足ニ遭

支、在支各總領事、北平ヘ轉電セリ

支ヨリ上海ヘ廣東ヨリ香港ヘ轉報アリタシ

~~~~~

8 昭和11年1月26日 在南京須磨總領事より  
広田外務大臣宛(電報)

広田三原則を中国側が承認したか否かの事実  
關係をめぐり張群と意見対立について

南京 1月26日夜発  
本省 1月26日夜着

第五四號

本官發支宛電報

第五八號(至急、極秘)

大臣宛往電第四九號ニ關シ

二十五日楊雲竹來訪ノ際外交部發表ニ關スル本官ノ意見ヲ  
求メタル次第モアリ二十五日張群ニ會見ノ際大臣宛往電第  
三八號ノ發表ハヨモヤ外交部力正氣ニテ出サレタルモノニ  
ハアラサルヘシト問ヘルニ張ハ外相ノ演說中三原則ハ支那  
側ニ於テ「アクセプト」セリト英譯サレ居リタル爲發表セ  
シメタリトテ左ノ通り會談セリ

ヒ之カ彌縫ノ爲孔祥熙モ困リ拔キ幣制ノ維持ノミナラス  
財政ノ調整モ茲三、四箇月内ニハ不可能トナルモノト見  
ラレ居レリ

(三)胡漢民ハ居正、陳策、葉楚傖等ノ工作ニ依リ二月初メニ  
ハ兎モ角來滬シ暫ク形勢ヲ見タル上來寧スルモノノ如ク  
(既ニ當地元黃濬ノ邸宅ヲ借入レ居レリ)右ハ孫科、居正、  
許崇智等カ兎角中央黨部カ陳立夫ヲ中心トスルCC團ニ  
牛耳ラルル現狀ヲ見テ此ノ際漢民ノ來寧ヲ求メ黨部ノ傳  
統ヲ回復セントノ策動ニ基クモノノ如キ處何レニセヨ漢  
民ノ歸寧後ハ黨部内ニモ反蔣氣分醸成セラルヘキニ付蔣  
ハ之ニ對抗セシムル見地ヨリ頻リニ汪兆銘ノ入京ヲ促シ  
居ル様子ナルカ若シ右實現ノ曉ニハ黨部内ノ舊怨モ再生  
シ内爭漸ク激烈ヲ加フルモノト觀測セララル

(三)之ヲ要スルニ茲三、四箇月内ニハ國民政府ノ内部鬭爭並ニ  
財政逼迫其ノ極ニ達スヘク蒋介石ハ且下内政問題ニ苦慮中  
ナル關係モアリ自然對日外交等ニモ一定ノ方針アル筈ナク  
此ノ儘ニ引摺ラルルニ於テハ學生代表ニ述ヘタル言質(往  
電第五〇號)等ニ知ラス知ラス捉ハルルコトトモナルヘシ  
ト見ラレ居レリ

(一)張ハ問題ノ三原則ハ廣田大臣ト蔣作賓トノ間ニ東京ニ於  
テ數回論議セラレタルモ支那側ニテ(蔣ニテ)承認等セル  
事實ナシト述ヘタルニ付本官ヨリ十一月二十日有吉大使、  
蒋介石會見ノ際本官モ立會ヘル次第ヲ述ヘタルニ張ハ  
(イ)蒋介石ハ當時個人ノ資格ニテ談話セリ而モ三原則ニハ  
贊成ナリト言ヘルニ過キス

(ロ)北方ニ大員ヲ派遣シ三原則ニ付日本側ノ責任者ト協議  
スヘシト述ヘタルニ過キス

(ハ)十月二十日廣田外相ハ蔣作賓ニ對シ(會談録ヲ讀上ク)  
日本ニ於テ支那側ノ三原則ヲ認メサレハ日本側三原則  
ヲ承認シ難シト云フニ於テハ日本ノ期待ヲ去ルコト遠  
シト述ヘ居ラルルニ見テモ支那側ハ常ニ支那側自体ノ  
三原則ヲモ併セ考ヘ居リ自然日本側ノ原則ノミヲ承認  
スル筈ナシ

(ニ)演說中ニ支那側カ如何ニモ滿洲國ノ承認ヲ豫定シ居ル  
カ如キ口吻アルハ事實ニ反ス  
ト述ヘタリ

(三)本官ヨリ

(イ)蔣ハ事實上國家ノ最高當局者トシテ會見シタレハコソ

當時北支問題等ニ付三時間モ會談セルニアラスヤ又贊成スト述ヘタルハ事實ナルモ同時ニ三原則ニハ對案モナク且實行ノ意思アリト言ヘルハ承認以上ノコトヲ意味スルモノナリ

(d)大員派遣ハ北支自治問題ニ付テノ提議ニ止マリ我方ハ自治問題トハ全然別ニ三原則問題ニ言及セルニアラスヤ

(e)蔣介石ノ承認ハ十一月二十日ナレハ十月二十日ノ蔣作賓會談ハ問題トナラス

(f)大臣演說ハ豫テ同大臣ノ蔣作賓ニ話セルモノト全然同一ナリト述ヘ本日ノ御話ハ重大ナル食言ト云フヘク日支關係ノ根底トナルヘキ原則ニ付スル不届ナル辯解ハ受入レ難シト主張セリ

(g)張ハ然ラハ解釋ノ相違ナリ支那側ハ先ツ三原則ノ具體案ヲ伺ヒ其ノ上ニテ原則ニ付的確ナル意見ヲ述ヘ度キ希望ナリト主張セルニ對シ本官ハ右ノ如クムハ日本政府代表者ヲ愚弄スル恐シキ食言ナリト述ヘ且大臣宛往電第三六號ノ話ヲ繰返シ押問答ノ後張ハ食言ニアラス又支那側ハ三原則ヲ拒絕スト言ヒ居ルニアラスト一流ノ胡魔化シヲ

試ミタリ

(四)依テ本官ヨリ然ラハ假ニ行懸ヲ措キ今更メテ外交部長トシテノ貴下ニ於テ此ノ三原則ヲ承認セサルヘキヤト詰寄リタルニ張ハ大分躊躇シタル後

(4)三原則ノ具體案ニ付相談スルコトニハ同意ナリトテ前言ヲ繰返セルニ依リ本官ハ斯クモ無誠意ナルコトヲ有ノ儘政府ニ報告スルハ餘リニモ重大ナリト注意シ此ノ分ニテハ貴下ノ外交部長モ失敗ノ外ナカルヘキニ付今一應蔣介石トモ相談シ出直シテハ如何ト言ヘルニ心配ノ面持ニテ考ヘタル後張ハ二十九日貴大使來寧ノ際ニハ自然蔣院長トモ會ハルヘキニ依リ其ノ際又話合フコトスヘシト答ヘタリ

(五)更ニ本官ヨリ張ニ對シ大臣宛往電第四八號新民報等ノ論調甚シキハ實ハ多少貴下ノ意見ヲ反映シ居ルヲ知り驚クノ外ナキカ新聞ヲモ眞面目ニ取締ラサレハ所詮自縛自縛トモナルヘシト注意セルニ張ハ取締ヲ約シ且本日ノ會談ハ重要ナルニ付暫ク發表見合方頼ミタルニ依リ承諾シ置ケリ

大臣へ轉電セリ

9 昭和11年1月26日 在南京須磨總領事より  
広田外務大臣宛(電報)

# 磯谷大使館付武官に対する蔣院長の談話内容について

南京 1月26日夜発  
本省 1月26日夜着

第五六號

磯谷武官二十四日來寧張群、何應欽ト會談セルカ何レモ反對派ヲ押切り日支提携ヲ實現スルノ自信アル旨ヲ力說セル趣ナルカ蔣介石ハ左ノ通り語レル趣ナリ

蔣ハ躍進日本ニ關スル只今ノ御話ハ非常ニ印象深く拜聽セリ自分ハ日本ハ侵略者トハ思ヒ居ラス又領土的野心ヲ有セリトモ認メス蘇聯ハ領土ハ勿論我國民思想迄モ侵略セント企圖シ居ルニ拘ラス我國民ニハ反蘇氣分無キノミナラス青年中ニハ却テ之ニ心酔スル者サヘアルカ如キ實狀ナルニ一方事實侵略國ニアラサル日本カ支那ニ於テハ侵略者ト見ラレ居ル點ニ付テハ充分考慮ノ要アルヘシ自分ハ日支提携ハ必ス實行スヘク又右實現ノ可能性アリト信シタレハコソ行政院長ニ就任セリ

10 昭和11年1月27日 在南京須磨總領事より  
広田外務大臣宛(電報)

# 広田三原則承認問題をめぐる中国側事情に関する吳鼎昌内話について

南京 1月27日夜発  
本省 1月27日夜着

第六〇號(極秘)

往電第三六號ニ關シ

本二十七日吳鼎昌ハ本官ニ對シ三原則ニ付自分ヨリ廣田大臣ニ對シ原則ノミニテハ支那側モ承認シ難カルヘキモ若シ

三、本使ヨリ右ハ外相ノ演説ヲ充分精讀セサルカ爲生シタル誤解ナリトテ其ノ文意ヲ説示シタルニ張ハ支那側ハ三原則ニ對シテハ承諾シタルテモナク又拒絕シタル譯テモナク三原則ニ基キ具體案ヲ相談スルコトハ贊成ナル旨表示シタル迄ナリ然ルニ外相ノ演説ハ滿洲國承認ノ點ヲモ支那側力同意シタル様解セラレ殊ニ最近須磨總領事ノ話ニ依レハ日本側ニハ三原則ニ對シ特ニ具體案ナルモノナシトノコトナルカ之テハ空漠ナル申合ニテ何等結果ヲ生セサルコトナルヘク此ノ點解釋ニ苦シム次第ニテ支那側カ先般來具體案ノ提示ヲ求メ居ルハ之カ爲ナリト述ヘタリ

三、依テ本使ハ所謂三原則ハ將來兩國間ノ各種ノ問題ヲ右基本原則ニ準據シテ解決セントスルモノ即チ基準ヲ示スモノニシテ之カ結果ヲ求ムルコト即チ具體化スルコトハ今後着手スヘキ問題ナリ此ノ點ニ關シ支那側力之迄三原則其ノモノニ對スル具體案ヲ求メラレタルコトハ事實ナルモ外相ノ演説等ヲ誤解シ之ニ藉口シテ從來屢言明シタル三原則ニ對スル同意ヲモ履サントスルハ不都合ナリトテ十一月二十日蔣介石ノ本使ニ對スル言明(客年南京發

具體案ノ提示アラハ大体容認セラルヘシト申上ケタルニ大臣ハ唯領カレタルノミニテ具體案ヲ出スヘシト言ハレタルニハアラサリシモ自分ノ此ノ報告カ外交部等ニ依リ利用セラレ居ルヤモ測ラレスト述ヘ要スルニ議會演説ノ際第二項中ニ滿洲國ノ正式承認ヲ述ヘラレ居ル處之ヲ支那力容認セリトアリテハ新政府ニ致命傷トナル譯故已ムナク先般ノ發言人ノ發表トナリシ次第ナルニ付テハ兎モ角具體案ノ提示ヲ急カルルコトトシ三原則承認云々ハ問題トセラレサルコト望マシト述ヘタルニ付

本官ヨリ張群ニ對スルト同様ノ説明ヲ與ヘ置キタルカ吳ハ當面ノ責任者ニアラサル内輪話ナルカ蔣介石ニ於テ三原則竝ニ一般ノ問題ニ付話ヲ進メ度シト折角決心シタル折ナレハ成ルヘク之ヲ逆轉セシメサル様手加減アリ度シト繰返シ又北支ノ事情ハ日々意外ニ出テ石友三ノ如キ支那側ニ全然信用無キ人物ノ獵官運動アルノミニテ北支ノ人心ハ益々宋哲元ヲ離レ行ク様子ナル處日本トシテモ右形勢ハ決シテ得策ニアラサルヘキニ付速ニ何トカ解決スル様支那側ト話ヲ着ケラレ度シト述ヘ所謂日支關係調整ノ提議ハ北支問題カ當面ノ目當ナルコト窺ハレタルニ依リ本官ヨリ北支ノコト

ハ本質的ニ支那ノ内政ナレハ日本ニハ關係無キ譯ナリト應酬シ置ケリ

支ヘ轉電セリ

11 昭和11年1月29日 在南京須磨總領事より 廣田外務大臣宛(電報)

廣田三原則承認問題をめぐる有吉・張群會談の内容について

南京 1月29日夜発  
本省 1月29日夜着

第六六號

有吉大使ヨリ左ノ通

三、本使二十九日張群ト會見ノ際本使ヨリ南京發往電第五八號三原則問題ニ言及シ支那側力一旦同意シタル問題ヲ今ニ至リ兎ヤ角ト議論スルハ意外トスル所ナリトテ其ノ不信ヲ責メ確答ヲ求メタルニ張ハ廣田外相ノ議會演説ニ依レハ滿洲國ノ承認迄行カネハ國交調整出來ストノ趣旨アリ外相ノ三原則ハ此ノ點迄含ム様ニ解セラルルカ如何ト尋ネタルニ付

往電第一二一九號(編注二)及十二月二十日張ノ本使ニ對スル應答(客年本使發往電第一一五〇號(編注二))等ノ點ヲ繰返シテ指摘シ更ニ斯ノ如キ食言ヲ爲スコトヲ止メ率直ニ然諾ヲ重ンスヘキコト及今日ニ至リ斯ノ如キ議論ヲ爲スコトノ大局ニ及ホス影響ノ大ナル次第ヲ説示シタルニ

四、張ハ三原則ノ相談ハ差支ナキニ付具體案ヲ提示シ相談ニ入り度シトノミニテ依然三原則同意ノ言明ヲ承認セス双方押問答ヲ重ネタルカ此ノ間張ハ漸次辯明ニ窮シ結局明日貴大使ハ蔣院長ニ面會セラルル豫定ニ付其ノ節改メテ御話スルコトト致度シト述ヘタルニ付本使ヨリ尙其ノ反省ヲ求メタル上話ヲ打切りタリ

支、北平、天津ヘ轉電セリ

編注一 第一二九一号の誤りと思われる。『日本外交文書』昭和

和期Ⅱ第一部第四卷第67文書。

二 第一二四〇号の誤りと思われる。『日本外交文書』昭和  
和期Ⅱ第一部第四卷第73文書。

12 昭和11年1月31日 在南京須磨總領事より  
広田外務大臣宛(電報)

広田三原則承認問題をめぐる有吉・蔣介石会談の内容について

南京 1月31日後発  
本省 1月31日夜着

第七二號

往電第六六號ニ關シ

有吉大使ヨリ左ノ通

一、三十日本使蔣介石ヲ訪問シ先ツ本使ヨリ離任ノ挨拶ヲ述ヘタル處蔣ハ本使ノ在任中ニ於ケル兩國國交増進ニ關スル努力ヲ謝スル旨ヲ述ヘタル上歸國ノ節ハ牧野、幣原兩氏ニ對シ宜敷ク傳言ヲ請フ等申シ居タルカ

二、更ニ蔣ハ本使ノ離任ニ際シ支那ニ對スル註文等個人的ニ何等御注意ノ點アラハ承リ度シト述ヘタルニ付本使ハ率直ニ言ヘハ從來貴院長ノ意見ヲ屢聽キ得タル自分等ハ相當其ノ眞意ノアル所ヲ了解シ居ルモ一般ニハ貴院長ノ對日態度ニ付日本側ニテ疑惑ヲ抱キ居ル者鮮カラストテ國交ノ改善ニハ相互ノ理解ノ必要ナル次第ヲ説キ此ノ上ト

モ事實ニ依リ眞意ヲ理解セシムルコトニ努力アリ度シトノ趣旨ヲ述ヘタルニ蔣ハ了承ノ旨答ヘタルカ

三、次テ本使ハ三原則問題ニ言及シ國家ノ當局者ハ國家ノ事情ニ依リ國內ニ對スル立場モアルヘキ處例ノ三原則問題ハ昨日張部長トモ話合ヒタルカ或ハ貴方ニテハ廣田外相ノ議會演説ヲ誤解シ居ルニアラスヤトモ思考セラルトテ其ノ要旨ヲ説示シ尙右外相ノ演説ハ本使カ貴下及張部長ノ言明ニ基キ報告シタル趣旨ヲ引用シ發表シタルモノナルヲ以テ若シ貴方ノ解釋ニ誤解アリトセハ本使ノ責任上ヨリモ此ノ點ヲ明瞭ニシ置ク必要アリト述ヘ暗ニ誤解ヲ理由ニ先方ニ反省ノ餘地ヲ與フル積リニテ蔣ノ意見ヲ求メタルニ

四、蔣ハ昨日ノ話ハ張部長ヨリモ委細報告ヲ聽キタリ自分(蔣)ノ意見ハ昨日張ヨリ申上ケタル通ニ付其ノ旨外相ニ傳ヘラレ度シト述ヘ猶此ノ問題ニ付テハ日本側ノ發言人カ本件ニ付中國ノ最高當局カ同意セルニ拘ラス云々ト發表セル爲自分モ國內ニ對スル責任上立場ニ困難ヲ來セル次第ナレハ自分ハ勿論言ツタコトヲ言ハヌ等ハ言ハス自分ノ言ツタ意味ハ三原則ニ就キ相談スルコトニ同意シタ

13 昭和11年1月31日 在南京須磨總領事より  
広田外務大臣宛(電報)

広田三原則承認問題への対処振りにつき意見具申

付記 昭和十一年二月十九日、外務・陸軍・海軍三

省主管當局決定

「有田大使ノ赴任ニ當リ同大使ニ指示スヘキ三原則問題ニ關スル南京政府トノ差當リノ接觸振案」

南京 1月31日後発  
本省 2月1日前着

第七五號(極秘)

往電第六六號及第七二號ニ關シ

有吉大使ヨリ

一、張群、蔣介石等ノ三原則ニ對スル應酬振ハ何レモ支那側トシテハ三原則ヲ拒絶スルモノニアラス之カ内容ニ付話合ヲ爲シ度キ意嚮ナルモ我方ヨリ其ノ内容ヲ具體的ニ明示セサル限り之ヲ鵜呑ニスルコト能ハスト謂フニアリ右ハ閣下ノ議會ニ於ケル御演説カ恰モ三原則ハ滿洲國ノ承認ヲ含ムモノノ如ク解セラレ且支那側ハ全部三原則ヲ承

認セルモノトノ印象ヲ與ヘタル爲(二十一日東京發同盟  
ハ右御演說ノ概要トシテ支那ハ eventual recognition of  
Man chow Kuo ヲ含ム三原則ニ同意セル旨ヲ報シ居レリ)  
蔣、張等ニ於テ其ノ對内關係上困難ノ立場ニ陥リ殊ニ西  
南派トノ關係等モアリ反對派ノ攻撃ヲ免ルルコトニ苦心  
シタルハ事實ナルヘク他方北支問題ニ對スル我方ノ工作  
カ出先ノ間ニ意見ノ一致ヲ缺キ且現ニ兵力ノ行使ヲ避ケ  
テ漸進主義ニ依ルノ方針ヲ確立セルコトカ漸次支那側ニ  
知レ渡ルニ及ヒ彼等ハ茲ニ三原則承認ノ前言ヲ翻シ前記  
ノ如キ態度ヲ執ルニ至リタルモノト存セラレハ蔣、張  
兩人ノ應酬振カ全然一致シ居ルコト及往電第六〇號吳鼎  
昌ノ須磨ニ對スル說明等查察シ南京側ニ於テ充分審議ノ  
結果決定セル確定方針ナリト存セラル

②而シテ我方ノ之ニ對スル對策トシテハ飽迄彼等ノ食言ヲ  
責メ之ヲシテ三原則ノ承認ヲ確認セシムル様追求スルコ  
トモ一案ナルヘキカ客年支發往電第一〇四五號及其ノ後  
ノ南京發往電ニ依リ御承知ノ如ク南京側ニ於テ一定ノ限  
度以內ニ於テハ我方トノ全面的關係ノ改善ニ對シ努力ス  
ルモ我方ニ於テ右限度ヲ超ユル要求ヲ爲ス場合ニハ投出

の態度ニ出ツルモノト觀測セラレ而モ三原則ニ對スル今  
回支那側ノ態度カ豫定觀測ヲ一層確認スルモノアルカ如  
キ今日ノ事態ニ於テハ前述ノ如ク三原則ノ承認ヲ強要ス  
ル爲ニハ我方ニ於テ一面北支問題ノ革新的解決ヲ計リ場  
合ニ依リテハ兵力ニ訴フルノ態度ヲ執ルト共ニ他面對支  
全面的關係ノ改善ニ付テモ各方面ニ壓迫ヲ加フルノ決意  
ヲ示ササル限り殆ト不可能ノコトト存セラルルノミナラ  
ス北支問題收拾ノ見透シ付カサル今日ニ於テ三原則ノ爲  
ニ右ノ如ク全面的ニ急進的態度ヲ執ルモ果シテ兩國關係  
ノ全面的改善ヲ達成シ得ルヤハ頗ル疑ハシキモノト存ス

③依テ我方トシテハ本問題ニ對シテハ差當リ例ノ態度ヲ持  
シ支那側ニ於テハ三原則ヲ拒絕スルモノニアラス其ノ内  
容ニ付具體的談合ヲ進ムル意嚮ナル旨ヲ「テーク、ノー  
ト」スル態度ヲ執ルト共ニ右内容ノ談合ニ付テハ先方ヨ  
リ改メテ誠意ヲ披瀝シ來ラサル限り我方ヨリ暫ク之カ進  
行ヲ避ケ(先方ヨリ申入レ來ルニ於テハ承認ニ對スル先  
方ノ食言ヲ責メ之ニ依リ我方北支工作ノ理由ヲ暗示スル  
ノ態度ニ出ツルコト然ルヘシ)同時ニ北支自治ノ完成ニ  
向ツテ平穩裡ニ着々進行ヲ計リ之ニ依リ我方トシテハ三

原則ノ内容ノ大部分ヲ自ラ實現セシムルノ意嚮ナリトノ  
態度ヲ示シ之ニ對スル南京側ノ出方ヲ見ルコト然ルヘシ  
ト存ス

支、北平、天津へ轉電セリ

# (付記)

有田大使ノ赴任ニ當リ同大使ニ指示スヘキ三原則  
問題ニ關スル南京政府トノ差當リノ接觸振案

(昭和十一年一月十九日)

先般南京政府ハ在京丁代理大使ヲシテ數回ニ亘リ我方ニ對  
シ日支關係打開ノ爲日支交渉ヲ開始シ度ク而シテ右交渉ノ  
爲南京ニ於テ相當大懸リノ日支會議ヲ開催シタシトノ趣旨  
ヲ提言セシムル所アリタルカ我方ニ於テハ右南京側提言ヲ  
拒否スルコトナク寧ロ該交渉ヲ利用シテ先方ヲ誘導シツツ  
結局我方ノ企圖スル趣旨ニ依リ兩國關係ノ調整ヲ計ラムコ  
トヲ期スヘキ次第ナリ。但シ本件南京側申出ノ誠意尙疑ハ  
シキ節モアリ又一般ノ形勢未タ熟セサル點モアルニ付此際  
差當リハ敍上我方ノ存意ヲ考慮ニ入レツツ大體左記「ライ  
ン」ニヨリ南京側ト當面ノ接觸ヲ續ケ以テ我方ノ目的トス

ル所ニ向ツテ先方ノ誘導ヲ計ルコトト致度

(一)本件交渉ハ丁代理大使提言ノ如ク會議體トナスコトナク  
重光次官ノ同代理大使ニ對スル應酬ノ趣旨ニ依リ原則ト  
シテ在支帝國大使ト南京政府外交部長トノ間ノ普通ノ外  
交手段ニ依ル交渉トスルコト

(二)南京政府ニ於テ三原則ヲ確認シ且之ヲ具體的ニ實行スヘ  
キコトヲ要求スルコト(三原則確認前ト雖我方ノ必要ト  
認ムル具體問題ニ付テハ三原則ノ精神ニ依リ處理スヘキ  
コトヲ主張シ解決ヲ計ルヘキハ勿論ナリ)尙南京側ニ於  
テハ本件交渉ノ開始ニ當リ我方ヨリ三原則實行ノ具體案  
一切ヲ提出セムコトヲ要求シ且右具體案一切ノ提出ナク  
ハ交渉ヲ進行セシメストノ態度ニ出ツルヤモ知レサル處  
右ニ對シテハ三原則ハ日支關係打開ノ原則的精神ニシテ  
日支間ノ一切ノ問題ハ該精神ニ依リ處理セラルヘキモノ  
ナルカ此ノ際此等ノ問題一切ヲ列舉セムコトヲ求メ殊ニ  
一舉ニ全問題ノ解決ヲ計ラント云フカ如キハ云フヘクシ  
テ行ヒ難キコトニシテ要スルニ本件交渉ヲ口實トシ實際  
上日支關係ノ打開ヲ遷延セムトスルモノニ外ナラサル旨  
ヲ說示シ支那側ノ反省ヲ求ムヘク將又支那側カ三原則具

體的實行案ノ例示ヲ求ムルカ如キ場合ニハ事宜ニ應シ例  
ヘハ左記ノ如キ點ヲ適宜說示スルコト可然(註、但シ此  
等諸點ト雖モ一時ニ實行セムトスル意味ニ非ス)  
(イ)排日反滿運動取締ノ徹底  
(ロ)從來實際上排日反滿運動ノ中心タル黨部ノ徹消又ハ少  
クトモ其ノ改善ノ徹底及國交上有害ナル秘密結社ノ解  
散又ハ少クトモ其ノ取締ノ徹底  
(ハ)國民政府及地方機關ノ重要部門ニ有力ナル本邦人顧問  
ヲ傭聘スルコト  
(ニ)少クトモ主要懸案ヲ三原則ノ精神ニ依リ速ニ解決スル  
コト  
(ホ)日支經濟提携ヲ目的トスル各般ノ措置、少クトモ此ノ  
際速ニ日支互惠稅率ヲ復活スルコト  
(ヘ)國民政府ハ滿洲國ニ對シ窮局ニ於テハ正式承認ヲ與フ  
ヘキコト右前ト雖モ差當リ少クトモ滿支兩國間ノ圓滿  
ナル交通、通信、通商交易ヲ事實上促進スヘキ適當ノ  
措置ヲ講スルコト  
(ト)國民政府ニ於テ赤化勢力ノ脅威カ日滿支三國共通ノ關  
心事タルコトヲ認メ右脅威防止ニ關スル諸般ノ施設

害關係特ニ密接ナルヲ以テ我方ハ同地方ノ事態ニ對シ常  
ニ重大ナル關心ヲ有シ從テ必要ニ應シ該事態ニ付忠告乃  
至警告ヲナスコトアルヘシトノ留保ハ勿論之ヲ維持ス)  
尤モ本件ニ關シテモ南京側ト交渉スルコト却テ我方ニ有  
利ト認メラルル場合又ハ問題ニ關シテハ前記留保ニ基キ  
忠告又ハ警告ノ形ニ依リ事實上必要ノ折衝ヲ行フコト可  
然(南京側カ北支停戰協定ノ廢止又ハ改訂等ヲ申出テ來  
ルニ對シテハ從來通告廢止又ハ改訂ノ爲ニハ先ツ以テ支  
那側カ滿洲國ヲ正式ニ承認シ且滿支關係ニ關スル各般ノ  
條約協定ヲ成立セシムルコトヲ要スル處支那側ニ右様ノ  
用意アリヤヲ反問スルコト可然)  
尙北支工作ニ關シテハ陸軍中央部發天津軍司令官宛指示  
「北支處理要綱」(參照ノコト)

編 注 二月二十二日付広田外務大臣より在中国若杉臨時代理

大使宛公信を以て、本案は「差當ツテノ大体ノ指針ニ  
止ムル主旨ナルモ右ニ依リ南京政府トノ折衝竝ニ陸海  
軍側出先トノ聯絡ヲ計ラレ度」と訓令された。なお、  
右公信自体は見当らない。

(例ヘハ防共協定)ニ付日滿兩國ト協力スヘキコト  
(三)本件交渉ニ於テ南京側ハ所謂支那側三要綱ノ承認實行ヲ  
要望シ來ルヘキヤニ察セラルル處南京側カ治外法權撤廢  
等具體問題ヲ提起スルニ對シテハ重光次官ノ丁代理大使  
ニ對スル應酬振等ノ趣旨ニ依リ斯種問題提起ノ尙早ナル  
コトヲ以テ之ヲ拒ケ又具體問題ハ暫ク置キ三要綱ヲ原則  
的ニテモ承認セラレ度ト申出來ル場合ニハ我方トシテハ  
右支那側要望ノ尤モナルコトハ充分之ヲ認ムル次第ニシ  
テ從テ之カ爲今後事態ノ好轉ニ依リテハ何等カ適當ノ措  
置ヲ講シ度キ考ナルコトヲ懇說シテ先方ヲ慰撫スルト共  
ニ本件支那側要望ハ此ノ際我方三原則ノ代償トシテ要求  
スヘキ性質ノモノニ非ストノ趣旨ヲ以テ我三原則ノ實行  
ヲ迫ルコト  
(四)南京側カ南京政府ト北支政權トノ關係等北支政治機構問  
題ニ言及シ同問題ニ關スル我方出先ノ内面的工作ノ抑制  
ヲ要求スル場合ニハ我方ハ從來通りノ方針ニ依リ該問題  
ハ支那ノ内政問題ニシテ支那自ラ解決スヘキモノナリト  
ノ態度ヲ以テ之ニ臨ミ原則トシテ右南京側ノ要求ニ取合  
ハサルコト(但シ北支地方ハ滿洲國ト接壤シ帝國トノ利

14 昭和11年2月1日 在南京須磨總領事より  
広田外務大臣宛(電報)  
西南勢力との妥協が成立しても中国政府は対  
日抵抗を絶対に行わないとの馬超俊南京市長  
内話について

南京 2月1日夜発  
本省 2月1日夜着

第八三號

本一日馬超俊トノ會談要領左ノ通

「先ツ本官ヨリ日本滞在中得タル印象ヲ述ヘタル上個人的  
立場ヨリ御話スル次第ナリト前提シ胡漢民歸來後ニ於ケ  
ル中央ノ對西南態度ニ付意見ヲ徵シタルニ馬ハ寧粵カ相  
反目スルニ至リタルハ蔣介石ノ西南派即チ胡漢民ヘノ措  
置振ニ源ヲ發シタルモノニシテ今般胡ヲ迎ヘ黨部ノ衝ニ  
當ラシムルコトトナリ茲ニ確執ノ源ヲ除去シ得タル譯ナ  
レハ暗々裡ニ了解ヲ遂クルニ至レリ然レトモ假令西南ト  
ノ合作成立シタレハトテ敢テ一丸トナリテ日本ニ抵抗ス  
ルカ如キコト絕對ニナキヲ以テ御安心アリ度シト述ヘ  
ニ汪委員長時代ハ二重外交トシテ日本ヨリ相當疑惑視サレ

タルカ實ハ汪ヲ第一線ヨリ引カシメタルハ同人ノ健康ヲ心配シタルカ爲ニシテ今回蔣介石自ラ陣頭ニ立チ萬事采配ヲ振ルコトトナリタレハ日本ニ取リテハ却テ遣リ易カルヘシ

ニ支那ハ現在經濟的ニ極度ニ困難シ居リ金、銀、銅、鐵等所謂五金工業及交通等ノ實業未タ發達セサル處之カ助長ニハ如何様ニシテモ完全ナル國內統一ヲ實現セサルヘカラス之ニハ是非トモ日本ト提携ノ要アリ若シ日本ニシテ現在ノ如キ態度ニテ支那ニ臨マハ支那ハ已ムナク共產黨即チ蘇聯國ヘ手ヲ伸ハスヨリ外ナカルヘシトテ暗ニ日本トノ握手ヲ懇願スル様見受ケラレタリ御參考迄

支、北平、天津、廣東ヘ轉電セリ

15 昭和11年2月(5)日 在中國有吉大使より  
広田外務大臣宛(電報)

許世英駐日大使就任に関する中国紙報道振りに  
ついて

上海 発  
本省 2月5日後着

積ツテ寸ナル或ハ危局ヲ幾分ナリトモ緩和シ得ルタラウ

16 昭和11年2月5日 在中國有吉大使より  
広田外務大臣宛(電報)

有田新大使就任に関する中国紙報道振りに  
ついて

上海 2月5日夜着  
本省 2月5日夜着

第七九號

五日申報論說要旨

有吉大使ハ軍人ニ満足セラレス召還セラレ嘗テ「對支強硬論」ヲ唱ヘタル有田氏カ大使トナリタルハ相當注意スヘキコトニシテ現今ノ實情カラ考ヘテ日本大使交迭後ノ發展ハ大抵想像セラレ得ヘシ吾人ハ日本大使カ何人ナルカヲ以テ日支關係ヲ論スルモノニハアラス何トナレハ日本ノ支那ニ對スル行動ハ全部三宅坂及關東軍ヨリ發出シ外務省ハ獨自ノ見解ナク大使ノ交迭ハ我國ニ何等ノ影響アルモノニアラス又南京會議ノ實現ハ支那カ最大ノ忍耐ヲ以テ國際的共存ヲ計ル最後ノ試ニシテ若シ將來支那カ忍耐スル能ハサル點ニ達スレハ別ニ活路ヲ求メサルヲ得サルヘシ有田大使來華

※※ 特情 上海第八號

上海新聞報ハ賑務委員會委員長許世英氏ノ駐日大使就任ニ關シ五日社説ヲ掲載次ノ如ク論シテ居ル

許世英氏ノ駐日大使就任ノ報ヲ聞イテ驚カヌモノハナイ何故ナラハ許世英氏ハ從來慈善事業ニ終始シタ人テ未タ外交ノ衝ニ當ツタ事ハナイ且今ハ中日關係最も多事多端ノ時期テアル然シ今日ノ駐日使節ハ特殊地位テアル換言スレハ外交場裡ノ外ニアルト言ヒ得ル即チ萬寶山事件以來在外使節ハ外交交渉ニ對シテ全く無力トナツタ之ハ我中國許リテナク相手方ニ於テモ亦此ノ感ナキニアラス故ニ今日我駐日大使ノ最重要ナ責任ハ大體ヲ擲ムコトテアル即チ外交ノ術ヲ知ルヨリモ寧ロ德望ノ高イコトカ優ル許世英氏ノ大使トシテノ意義ハ全く此ノ點ニアルノタ吾人カ許世英氏ニ對シテ期待スルモノハ尋常外交官吏ニ望ムモノトハ相違スル許世英氏ハ慈善ノ念深ク多年慈善事業ニ携ハツタ人デアリ吾人ハ今回ハ環境カ違フト雖許氏カ本來ノ信條ヲ以テ其ノ感化ヲ及ホサンコトヲ望ムモノテアル今日ノ駐日大使ハ力ヲ盡スコトモ容易テナクナツタコトハ前述ノ通タカ許世英氏カ救済ノ精神ヲ以テ努力サレンコトヲ望ム一分ノ力ヲ盡セハ

ノ上南京會議ノ折衝ニ當ラルヘキカ彼ハ果シテ支那ヲシテ此ノ破目ニ至ラシムルカ將又外交獨立ノ見地ヲ以テ日本國內ノ侵略主義者ノ意思ヲ變更セシメ得ルヤ否ヤニ關シ吾人ハ非常ナル注意ヲ拂ヒ居ルモノナリ許氏ノ駐日大使任命ニ付テハ現今外交官活動ノ餘地ナケレトモ喪失セラレタル主權ノ挽回ト事態ヲ更ニ惡化セシメサル様努力ヲ望ム云々

北平、南京ヘ轉電セリ

17 昭和11年2月7日 在南京須磨總領事より  
広田外務大臣宛(電報)

日本の対外交は軍部の掌中にあるとの中国  
紙論說につき報告

南京 2月7日夜発  
本省 2月7日夜着

※※ 第一〇〇號

七日中國日報ハ社説ニ於テ今回對支強硬論ヲ主張シ來リタル有田大使ノ就任トナリタルハ不幸ニシテ同大使カ發表セル談話ヲ綜合セハ支那ノ歐米依存ヲ阻止シ歐米ノ在支勢力ヲ排除セントスルノミナラス日支經濟提携サヘモ不賛成ナ

京移転につき準備方訓令

本省 2月14日後3時10分発

合第八六號

南京宛往電第三一號ニ關シ

有田大使ノ赴寧ヲ機トシ不取敢堀内、有野、萩原三書記官（若杉參事官ハ差當リ上海ニテ待機スルコト）及夏目書記生（外ニ東京ヨリ横川及近藤書記生）ハ原則トシテ一應上海ヲ引拂ヒ南京ニ移轉スルコトト致度キニ付テハ右御含ミノ上豫メ諸般ノ準備（前記館員ノ上海ニ於ケル借家ハ成ルヘク速ニ解約ノ手續ヲ執ラレ度尙南京ニ於ケル新宿舎ニ關シテハ更メテ具体案ヲ附シ稟請アリ度シ追テ南京ニ於テ一時ニ適當ノ官舎ヲ借入ルルコトハ仲々困難ナルヘシト存セラルニ付テハ一部ノ者ハ此ノ際「ホテル」住ヒ又ハ合宿等ノ應急辦法ニテ暫ク我慢セラルルコトト致度シ）ヲ進メラルルト共ニ大使館事務所内備品ノ運搬等本件移轉ニ必要ナル諸費至急稟請アリ度シ

本電宛先 支、南京

ルヤノ觀アリステハ折角好轉セル空氣モ逆轉シ國交整調ノ努力ハ水泡ニ歸スヘシ磯谷武官ノ報告ハ謬論モ甚シク而モ外務省カ須磨總領事ノ報告ヲ聽キテモ尙態度ヲ決スル能ハス同武官ノ報告ヲ待チ對支政策ヲ決セントスルカ如キハ對支外交カ全ク軍部ノ掌中ニアリ外務省ハ一ノ取次機關ニ過キサルコトヲ立證スルモノニテ强硬方針ハ依然變化セサルヘク駐屯軍ノ擴充説、陸軍首腦部會議ノ議案等ヲ檢討セハ日本ハ支那ノ統一ヲ阻止セントスルコト窺ハレ畢竟日支合作ハ虚偽ニシテ所謂調整ハ消滅スヘシ斯ノ如ク日支關係ノ前途暗澹タル際日本ハ尙對支三原則ヲ忘レサルカ支那カ承諾ヲ否認シタルコト及支那側ニモ三原則ヲ有シ居ルコトヲ承知シ之ヲ棄テテハ日支接近ノ餘地ナキコトヲ覺悟セサルヘカラス（ト論シタリ）

支、北平、天津へ轉電セリ

18 昭和11年2月14日 広田外務大臣より  
在中国若杉（要）臨時代理大使、在南京  
須磨總領事宛（電報）

有田大使の赴任を機とした上海大使館員の南

19 昭和11年2月19日 在中国若杉臨時代理大使より  
広田外務大臣宛（電報）

外務省の大使南京常駐方針に対する陸海軍武官の意見について

上海 2月19日後発  
本省 2月19日夜着

第一二七號  
貴電合第八六號ニ關シ

右ハ大使南京常駐ノ建前ニ御確定ノ御趣旨ト存セラルルニ付其ノ旨當地陸海軍武官ニモ通報旁兩武官ニ於テハ如何措置スヘキヤ參考迄ニ兩武官室ノ意嚮ヲ確メタル處陸軍武官室ニテハ陸軍中央ノ意嚮ハ不明ナルモ磯谷武官ハ大使南京移駐ノ場合ニモ依然トシテ上海ニ駐在シ度キ意嚮ナルカ已ムヲ得サレハ大使館附武官ノ資格ヲ現在南京駐在ノ輔佐官（中佐）程度ニ引下ケ南京ニ駐在セシメ上海ニハ現在程度ノ高官ヲ置キ名目ハ特務機關長トスルモ一案（從來軍側ニ於テハ當地武官室以外ニ特務機關ヲ設置スルカ又ハ現在武官室ヲ擴大シ數名ノ佐官級ヲ増員スル計畫アリ）ナリトノ意嚮ニシテ又海軍武官ニ於テハ從來通り主トシテ上海ニ常駐

シ必要ニ應シ南京、上海半々駐在ノ建前ニシテ今後モ海軍ノ立場トシテハ現狀維持ヲ希望スルモ海軍ノ内規上武官ハ大使所在地ニ駐在スヘキ規定アルヲ以テ今回大使南京移駐ノ建前トナリタル以上之ニ適應スル措置ニ付テハ中央ノ指令ヲ仰ク積リナル趣ナリ

本件ハ既ニ本省ニ於テ御打合濟ノコトトハ存スルモ外務、陸、海軍出先機關ノ統制上及之カ支那側ニ對スル機微ノ關係ニモ鑑ミ考慮ヲ要スル事項ニ付大使御出發前御準備ノ參考迄ニ出先ノ意嚮爲念

南京へ轉電セリ

20 昭和11年3月2日 在南京須磨總領事より  
広田外務大臣宛（電報）

有田大使国書捧呈に際し軍艦による南京訪問  
は回避ありたき旨張群要請について

南京 3月2日後発  
本省 3月2日後着

第一九六號

本官發支宛電報

第一九三號

二日高宗武ヨリ館員ニ對シ張群ノ命ニ依ル趣ヲ以テ前同有吉公使國書捧呈ノ爲來寧ノ際軍艦ニ依ラレタルハ上海事件ノ後ニテ陸路ハ警戒其ノ他具合惡カリシ關係モアリシ處今回ハ其ノ心配モナク支那側トシテモ貴賓軍ノ提供其ノ他陸路ニ依ラルル場合充分ノ禮儀ヲ盡サンコトヲ期シ居リ且國民ノ感情ヨリスルモ日支國交ノ調整ニ當ラレントスル新大使カ直接軍艦ニテ首都ニ乗込マルハ甚タ面白カラスト思考セラルルニ付テハ御歸リハ何ニ依ラルトモ今次御來寧ノ際丈ケハ枉ケテ陸路ニ依ラレ度キ旨強ク懇請アリタルニ付係官ヨリ既ニ軍艦ニテ來寧ノコトニ内定シ居リ成否ハ如何カト存スルモ早速大使ニ御申出ノ次第通報スヘシト答ヘ置キタル趣ニ付テハ何分ノ儀折返シ御回電アリ度シ大臣ヘ轉電セリ

21 昭和11年3月2日

在中国有田(八郎)大使より  
広田外務大臣宛(電報)

國書捧呈に際して軍艦での南京訪問が変更不可能な事情について

編注 有田大使は軍艦安宅にて三月五日に南京到着、同六日に國書を捧呈した。

22 昭和11年3月23日

在中国有田大使より  
広田外務大臣宛(電報)

事務打合せのため上海発一時帰朝について

付記一 昭和十一年三月二十二、二十三日

上海における公館長会議事要旨

二 昭和十一年三月二十五日

天津における公館長会議事要旨

上海 3月23日後発

本省 3月23日夜着

第二一二號

南京發北平宛往電第一二號ニ關シ

本使本日若杉、萩原、近藤ヲ帶同シ出發ス若杉ハ天津ニ於ケル會議終了後歸任セシメ他ノ二名ハ東京迄同行セシムヘキニ付御承認アリ度シ

濟南、南京、天津、北平ヘ轉電セリ

第一六六號

本使發南京宛電報

第七〇號

貴電第一九三號ニ關シ

外交部長折角ノ申出ニモアリ先方ノ希望ニ副ヒ度キコト萬々ナルモ四日早朝出發ノ豫定ニテ時日モ切迫シ海軍側其ノ他ト既ニ萬事手配済ニテ今更陸路ニ變更シ得サルニ付右先方ヘ御傳ヘアリ度ク尙右軍艦ニ依ル赴寧ハ昭和四年五月奉安大典ノ際芳澤公使カ軍艦ニテ赴寧シタルコト(當時日本ノ使節一行カ支那側ニ好感ヲ與ヘ大ニ歡迎セラレタルコト御承知ノ通り)及有吉公使ノ前例モアリ專ラ儀禮ヲ敦クスル爲ニシテ兼テ海軍側ノ本使ニ對スル「カーテシー」ニ應スル意味合ヲ有シ居ルニ過キス支那側ノ警備如何等政治的事項ヲ考慮ニ入レ決定シタル次第ニハ全然無之此ノ點併セテ然ルヘク説明セラレ度シ尙又英國大使等カ隨時軍艦ニテ旅行セル前例アルハ御承知ノ通大臣ヘ轉電セリ

上海 3月2日後発  
本省 3月3日夜着

(付記一)

上海ニ參集セル各總領事ヨリ有田大使ヘノ報告要旨

(萩原書記官)

出席者

上海 石射總領事

青島 西總領事

廣東 河相總領事(第二日ノミ)

濟南 西田總領事

南京 須磨總領事

漢口 三浦總領事

福州 中村總領事(第二日ノミ)

大使館側

若杉參事官

堀内書記官

各書記官

杉原領事

岩井商務官

時間及場所

二十二日(日曜)午前 自午前八時至正午(約四時間)事務所  
二十三日(月曜)午前 自午前八時至正午(約四時間)事務所  
日程

冒頭先ツ大使ヨリ御着任以來ノ御感想其ノ他ヲ承リタル  
上(約三十分)各總領事ヨリ各地支那側官民ノ對日態度  
(排日問題ヲ含ム)、各地方當局ノ相互及對中央態度、我  
方ノ對策(出先陸海軍ノ態度ヲ含ム)其ノ他主トシテ政治  
的方面ノ報告ヲ各總領事各三十分、合計三時間半、次テ  
各總領事及商務官ヨリ貿易、通商、金融、鐵道等經濟的  
方面ノ管内事情、管内特殊事項及外務機構ノ改善等ニ關  
シ各總領事各三十分、合計四時間ニテ報告スル豫定ナリ  
シモ河相、中村總領事來滬遲延セル爲多少順序ヲ變更セ  
リ

## 有田大使挨拶

諸君ヨリ各地ノ事情ヲ聽取スル爲ノ御集リヲ願ヒタル譯  
ナルカ一言自分ヨリ挨拶旁々御話スヘシ

今回自分ノ赴任ニ際シ與ヘラレタル訓令ハ前任有吉大使  
ニ與ヘラレタル訓令ト同シク三原則ヲ承認(必スシモ文  
書ニ依ル要ハナキモ)セシムルト共ニ其ノ間ニ各般ノ交

此ノ支障サヘ相當程度ニ解決シ得ヘシト考ヘ居レリ

尙別ノ問題ナルカ日英關係殊ニ支那ニ於ケル日英關係ニ  
付一言スヘシ本省ハ天羽聲明以來在支英國勢力驅逐ノ方  
針ニテ進ミ來レルカ最近松平大使ノ歸朝以來ノ努力等モ  
アリタル外對蘇關係ノ影響等モアリテ日英協調論ヲ唱フ  
ルモノ鮮ナカラサルニ至レリ(對蘇關係ハ強硬論ト消極  
論トアリト雖モ蘇側ノ兵力集中ノ爲消極論者スラ對蘇戰  
爭不可避免論乃至少クトモ對蘇戰備必需論ニ傾キツツアリ  
從テ茲ニ對蘇保障工作トシテ英米トノ協調論ヲ生シツツ  
アリ)自分トシテハ對英關係ハ支那ニ於テハ結局英國勢  
力ノ驅逐ヲ終局ノ目標トシテ其ノ心構ヘヲ以テスルヲ要  
スルモ日本ノ支那ニ於ケル發展ヲ長期ニ亘リ拘策スルコ  
トナク且日本ノ「プレスチーヂュ」ヲ害セサルコトヲ條  
件トシテ差當リ現實ノ問題ニ付或程度ノ協調ヲナシ行ク  
コトハ差支ヘナシト考ヘ居レリ

## 三石射上海總領事報告

委細ハ別ニ作成シ置キタル資料「上海狀況」ニテ御承知  
願度キカ簡單ニ上海方面ノ實情ニ付報告スヘシ

(一)上海方面ノ排日ハ表面些シタルコトナキモ内訌的トナ

涉ヲ進ムルニ在リタルモ右ノ達成ノ容易ナラサルハ勿論  
ニ付自分ハ三原則ハ自身未タ完全ニ了解セサルモノ  
トシテ自由ナル立場ニテ話合ヲ試ミルコトトスヘキ旨豫  
メ本省ノ諒解ヲ得テ赴任セリ

從テ今回張群等トノ會談ニ當ツテモ自分ハ訓令ハ持チ來  
リ居ルモ急ニ一時歸國セサルヘカラサルコトトナリ訓令  
ニ基ク交渉ハ時間ノ餘裕モナキニ付各自思ヒ付キノ儘ニ  
話合ヒ但右話合ハ決シテ他日「クオート」セサルコトト  
スルコトトシ度キ旨ヲ前提シタル上一般の問題ニ付キ隔  
意ナキ意見ノ交換ヲ爲シタルモノナリ從テ其ノ會談ノ内  
容ハ茲ニ全部ヲオ話しスル譯ニハ行カサルモ要スルニ日  
支國交調整ニ關シテハ日本側ニハ支那側ノ熱意不足ナリ  
トノ意見モアルニ付此ノ際支那側トシテ相當思ヒ切ツタ  
「ジエスチュア」ヲ示ス要アルコト及此ノ點支那側力之  
ヲ「イージー」ニ取リテ措置ヲ誤ルコトアラハ頗ル危險  
ナル事態ニ立至ルヘキコトヲ自分ヨリ説示セル次第ナル  
カ先方ハ滿洲國不承認ニハ相當強キ決意ヲ有スルモ其ノ  
他ノ問題ハ之ヲ解決セムトスル決意ヲ有スルヤニ見受ケ  
ラレタリ之ニ對スル唯一ノ支障ハ北支問題ノ解決ニシテ

レル感アリ新聞ノ如キモ最近迄日本ニ對シ比較的遠慮  
勝チノ筆致ナリシモ最近復々氣勢ヲ擧ケ來レルカノ感  
アリ

(二)上海ノ實權者ハ吳市長ニシテ同市長ハ日本側ニ對シテ  
モ好キノミナラス南京政府ヨリモ信頼セラレ各國側ヨ  
リモ信望アリ吳市長ニ對シテハ豫テ自分ヨリ北支等ノ  
動向如何ニ拘ラス上海ヲ無風狀態ニ置カサルヘカラス  
上海ニテ日支相爭フノ双方ニ不利ナルハ上海事件ニテ  
實驗濟ミナリトノ趣旨ヲ説示シ來レルカ市長モ之ニ同  
感ニシテ此ノ「ライン」ニテ努力シツツアリ

(三)上海ニ於ケル特異ノ存在ニシテ指導上注意ヲ要スルハ  
陸戰隊ナルカ同隊ハ各種ノ問題ニ付軍ノ名譽ノ爲ニ些  
細ノ事ニ付キテモ相當強ク支那側ニ當リ租界當局トモ  
問題ヲ起スコトナシトセサルモ海軍ノ遣リ方ハ惡意  
(或ル目的ヲ以テ或種ノ工作ヲ爲スト言フカ如キ考ヘ)  
ハナク斯クスルコトカ正シト信スルカ故ニ斯クナササ  
ルヘカラスト言フ態度ニシテ説クニ理ヲ以テセハ當方  
ノ方針ハ阻誤ナキヲ得シムルコト不可能ニ非ス此ノ點  
海軍側ニ感謝シ居レリ

四、租界外道路問題ハ所謂租界外道路ヲ支那側ニ返還シ之ヲ特別區域トシテ外交共同ノ行政(殊ニ警察)ヲナサシムル方針ニテ略交渉纏ラントシツツアリ

(四)停戰協定ハ一時支那側ニ於テ停戰ニ依リ完了セルモノトシテ其ノ效力ヲ否定セムトスル傾向アリタルモ一昨昨年支那側ヲシテ軍隊移動通知義務ヲ再確認セシメテ以來支那側ハ約束通り通知ヲナシ本協定ヲ否認セサルニ至レリ

(六)上海邦人銀行ノ強化問題(略)

(七)工部局内ノ日本勢力ノ増力方殊ニ參事會ノ邦人參事員數増加方ニ關シテハ越界路問題ノ關係上英國側トノ衝突ヲ避クル爲自重シ來レルモ上海居留民(一部「インテリ」ヲ除ク)ノ對英感情ハ益々惡化シ來リ今回ノ選舉ニ於テ遂ニ邦人側三名立候補ノコトナリタルカ右立候補ニ關スル自分ノ意見ハ別紙ニ記載セル通ナリ日本側トシテハ米國ノ勢力ヲ大シタモノトハ思ヒ居ラス米國側モ些シテ對日反感ヲ有スル譯ニ非サルモ英國側カ英米協調說ヲ持出シ來リタル爲英米對日本ノ關係トナリ強ヒテハ種族紛爭トナル惧ナキニ非ス

リト稱スルモノスラアルモ事實軍側ノ諒解アルモノニハ非サルカ如ク要スルニ一部不分子ノ策動ニ過キス

排日狀況ニ付テハ最近埠頭落成式ニ際シ何者カカ排日傳單ヲ散布シタル事件アリ學生運動ニ際シテモ煽動行爲ヲ爲セルモノアリタリト雖モ當局ハ相當熱心ニ取締リ居レリ

尙山東懸案解決條約ニ所謂市政參與權ナルモノアリ一時交渉ヲナシタルコトアルモ事實上死文ニ歸シ居レリ今後之カ復活方ニ付交渉スルノ要否ハ別トシ差當リハ當該條文ヲ利用シ隨時我方ノ權利ヲ嗅ハセツツ市政ニ關スル我方要望ヲ容レシムル手段トスルコト然ルヘシト考ヘ居レリ

青島市ノ財政ヲ見ルニ目下ハ建設事業ノ經費ヲ市債ニ依リ捻出シ居ルカ日本ヨリ之ヲ援助シテハ如何トノ議アリ又關稅收入ノ二割ヲ市政府カ取リテハ如何トノ議アリ統稅收入(日本人紡績ノ負擔額三百萬円ノ如キモ一部ヲ他方ノ事業ニ使用セシムルコト然ルヘキカト考ヘ居レリ

茂木事件ト民團側ノ違法支出トノ關係(略)

領事團問題ニ關スル英國總領事ノ態度(略)

(四)復資問題ハ居留民側ノ不當ノ要求ハ之ヲ容レサル方針ニテ處理シ居レリ

三、西青島總領事報告要旨

自分ハ青島着任以來日猶淺ク單ニ印象ヲ述フルニ止ムル外ナキカ青島ハ要スルニ特別市トシテ南京直轄市ナルト共ニ北支ノ一部ニ在ル點ヨリ特殊ノ考慮ヲ要スルモノト考ヘ居レリ

現任沈市長ハ青島市ノ建設事業及奧地開發等ヲ相當眞面目ニ遣リ居リ我方ノ希望スル仕事モ實現シツツアル模様ナルニ付我方トシテハ之ヲ適宜指導シ行クコト然ルヘシト考ヘ居レリ海軍側モ同意見ナルカ唯陸軍側ハ沈ニ對シ一種ノ反感アリ新聞等ニ沈ハ排日ナリ等書キ立テ居レリ(有田大使ヨリ西總領事ノ意見ヲ求メタルニ對シ西總領事ハ「自分トシテハ沈ヲシテ市長ヲ遣ラシメ置キテ差支ヘナシト考ヘ居レリ」ト答ヘ若杉參事官ヨリ陸軍側ノ沈排斥ノ動機如何ト質問ニ對シ「北支自治ニ韓復榘ヲ動キ出サシムル爲ニ代償トシテ韓ニ青島ヲ與ヘムトノ考ヘニ出發スルモノノ如シ」ト答フ)

山東自治運動ト言フカ如キモノナキニ非ス軍側ノ諒解ア

稅關長問題(略)

四、西田濟南總領事報告

北支自治ノ經緯ニ付同總領事カ客年十月北支出張當時觀取セル軍側意嚮其ノ後花谷中佐カ韓復榘ヲ往訪シテ其ノ蹶起ヲ促シタル内情等ニ付説明報告シ最近ノ韓復榘ノ心境ハ要スルニ北支五省乃至山東ノ自治ニ絶對反對ニハ非サルモ河北省内ニテ爭ヒヲ續ケ居ルカ如キ實情ニテハ山東トシテハ獨自ノ見解ヨリ中央ノ糾ノ緩ムヲ待ツ外ナシト言フニ歸スル旨ヲ述フ

五、三浦漢口總領事報告

(一)漢口ノ重要性、四川カ中央ノ勢力ニ歸スルト共ニ漢口ハ「奧地」タルノ感ヲ失ヒ交通ノ要路トシテノ重要性ヲ増大セリ政治的ニモ蔣介石カ四川ニ立籠リタル場合ハ漢口カ第一線トナルヘク西南ヲ攻ムルニモ西南ヨリ攻ムルニモ漢口カ中心トナルヘシ更ニ粵漢線ハ對日戰爭ノ場合唯一ノ交通路トナルヘク平漢線ハ北支ニ事アル場合主タル交通路トナルヘシ

(二)對日空氣、商業ノ方面ヨリ見レハ日貨排斥ハ殆ト其ノ跡ヲ斷チタルカ表面ニ顯ハレサル方面ニハ猶執拗ナル

排日アリ殊ニ最近盛ニ所謂抗日準備ヲナシ居リ官公吏ノ軍事教練、要塞築造、資源調査、保安隊ノ軍隊化、護路隊ノ編成等ハ其ノ左證ト認メ得ヘシ即チ蔣介石ノ對内策ノ「モットー」カ「掃共」ヨリ「新生活」ニ變シ更ニ「抗日準備」ニ變セムトシツアルハ注意ヲ要スヘシ

### (三) 長江流域ノ中央化(略)

#### 六 須磨南京總領事報告

蔣汪合作政權カ過去二ヶ年ニ亘リ解決シ來レル對日懸案ハ要スルニ蔣介石カ汪精衛ヲ利用シテ對日關係ノ緩和ヲ計ラムトセル結果ナルカ右ノ政策ニ拘ラス日本カ高踏政策ヲ執リ來レル爲一般ノ失望ト不滿ヲ買ヒ茲ニ蔣自ラ決心ヲ堅メテ局ニ當ルニ至レルモノニシテ謂ハハ汪精衛ナルゴム輪ヲ撤シテ自ラ陣頭ニ立ツニ至レルモノナリ斯クテ蔣介石ハ自ラ政局ニ立ツヤ日支國交ノ調整ヲ云々ヲ示シタルカ其ノ言ニ誠意ヲ認ムベキヤ否ヤハ別トシ結局北支問題等ニハ讓歩ヲ爲ササル決心ヲ明ニシタルモノト言フヘシ

客年十月末軍官學校生徒中決死隊十二名カ蔣介石ニ直訴

己ノ地位、自己ノ利害ノ保全ノ見地ヨリ蔣介石ニ對シ自己ノ軍權財權ヲ消極的ニ保護セムトスルニ過キス廣西派ニ至リテハ本來反蔣ニシテ反汪ハ附ケ足シナリ其ノ反蔣ハ感情的ニシテ深刻ナルモノナリ此ノ三派三樣ノ反蔣態度ヲ先以テ見極ムルコト肝要ナリ蔣介石ノ妥協工作モ右三派各々ニ對シ別様ノ工作ヲナシ居ルモノニシテ昨年來ノ前後二回ノ切クズシ工作ヲ見ルニ主トシテ蔣ノ工作ハ廣東即チ陳濟棠ニ向ケラレ(陳ハ之ニ對シ第四集團軍司令ノ名ヲ捨テ綏靖主任ノ地位ニ甘シ政務委員會ノ解散ヲ受諾スル等自己ノ軍權財權サヘ保全シ得レハ可ナリトノ態度ニ終始ス)胡漢民一派ニ對シテハ汪ノ下野ヲ無條件ニ來寧ヲ交渉セルモ廣西ニ對シテハ妥協ヲ試ミス以上ハ五全大會迄ノ形勢ナルカ北支事件起ルヤ西南派ハ民衆ニ對スル關係上排日ノ態度一舉國一致ノ抗日一ヲ採ラサルヲ得ス夫レ迄前後二回ノ長期ニ亘ル妥協工作サヘ成功セサリシ西南對南京ノ關係ハ北支事件ニ依リ著シク接近セリ(北支ノ自治ニ呼應シテ西南ノ軍閥カ反蔣運動ヲ起スヘシト觀測セルモノアルモ事實ハ之ニ反セリ北支事件起ルヤ廣西派スラ蔣ニ對シテハ寛容ノ態度ヲ示シ日

セル事件、對日戰備ノ爲ト稱シテ公務員全部ニ動員令ヲ下シタルノ事實、最近ニ於ケル巨額ノ武器輸入、一月十五日蔣カ學生ト會見シテ爲シタル訓令等ヨリ歸納シテ前記ノ如キ蔣介石ノ決心ハ推測ニ難カラス要スルニ蔣介石ハ對日關係ヨリモ對内關係ヲ顧慮セサルヘカラル立場ニ在リト言フヘク同時ニ蔣ノ内政上ノ地位カ著シク安定シ來レル事實モ亦觀過スヘカラス(且下反蔣運動ハ兵力ヲ以テシテハ蔣ニ對抗シ得ス僅ニ一方ニ於テ共產黨乃至共產主義ト他方ニ於テ「孔孟ニ歸レ」ト唱ヘテ蔣ノ遣リ方ヲ民利ニ反ストナス文化運動トニ於テ思想的反蔣運動ヲ見ル)

#### 七、河相廣東總領事報告

現在蔣介石政權ニ對シ僅カ乍ラ反抗シ居ルハ共產黨ト西南派ナリ然レドモ所謂西南派ナルモノハ胡漢民等元老派ト陳濟棠等實力派ト李宋仁白崇禧等廣西派ノ三派ノ寄合世帶ナリ而テ胡漢民一派ハ蔣介石ニ好感ハ有セサルモ主タル敵ハ汪精衛ニシテ反汪即チ汪トノ勢力爭ヒヨリ反蔣的傾向ヲ有スルモノナリ次ニ陳濟棠ハ感情的ニハ蔣ト衝突スルモノニ非ス唯廣東ヲ維持スルヲ商賣ト心得居リ自

本ニ對シテハ一切ノ關係ヲ絶タントスルノ態度ヲ示セリ、現ニ自分ハ李宗仁ニ接近シテ軍服ノ供給、經濟開發ノ技術的援助等ヲ計畫シ居タルモ一切駄目ニナレリ)尤モ北支事件カ案外ノ結果トナリタル爲最近再ヒ西南對南京ノ關係ニ阻隔ヲ來セリ貴州境數縣ノ反亂、南寧市内ニ於ケル白崇禧暗殺計畫ノ發覺等中央ノ策動ト見做シ得ヘキ事件モ廣西派ノ對南京態度硬化ニ與ツテ力アリ又南京側ノ軍ノ配置モ西南ニ對シ滿ヲ持スルカ如キ形ニアリ西南側ニハ進テ蔣ヲ討タントスル議スラ行ハルルニ至レリ

(我方ノ對西南政策如何ニ付大使ヨリ質問アリ)

我方トシテ見レハ武力ナキ胡一派ハ大シタ政治的勢力トハナラサルヘキニ付問題トナラズ結局兩廣即チ陳ト李、白トニ對シ如何ニシ行クヘキカ問題ナリ而テ陳ニ對シテハ利ヲ以テ釣ルカ權力ヲ以テ壓迫スルカノ外ナキ李及白ニ對シテハ相當ノ考慮ヲ要スヘシ李、白兩人共相當異色アル人物ニシテ廣西ノ建設計畫ノ如キモ民衆本位ニテ相當ノ成績ヲ擧ケ人望ヲ集メツアリ(此ノ遣リ方カ支那ノ他ノ部分ニ於テモ成功スヘキモノトセハ對策ヲ考

フル要アルヘシ)從テ李及白ニ對シテハ利ヲ以テシ又ハ壓力ヲ以テスルヨリモ建設の事業ニ對スル精神的及物質の同情ヲ以テスル要アルヘシ

(大使ヨリ軍側ノ工作如何トノ質問アリ)

軍ハ廣西及廣東ヲシテ實力ヲ養ヒ中央ニ對抗セシメムト工作シ居ルモノノ如ク李、白等ハ軍ノ好意ハ認メ居ルカ如シ

(大使ヨリ西南ノ自治ノ程度如何トノ質問アリ)

御承知ノ如ク滿洲事變前ハ獨立政府ナリシカ其ノ後西南政務委員會及西南執行部トナリ何レモ形式的ニハ夫々中央政府及中央黨部ニ屬スルモノナルモ實ハ陳濟棠ノ機關ニシテ陳自身モ自分ノ機關ト心得居レリ陳トシテハ財政及軍事ノ如キ死活ノ問題ハ一切中央ノ命ニ服セス夫レ以外ノ問題ハ中央ヲ立テ居レリ(米ノミニテ二千萬元ニ達スル專稅收入ノ如キハ之ヲ中心ニ妥協工作アリタルモ專稅廢止ニハ應セス又馮王璋ノ立案ニテ中央西南ノ陸空軍合併ノ計畫アリシモ名義上ノ編成替ヘニ應シタルノミニリ)

(大使ヨリ西南ノ英國側トノ關係如何トノ質問アリ)

ニ依リ上海ニ輸送セラレ正當業者ヲ壓迫シ居ルノミナ

ラス治安上遺憾ナル事件ヲスラ起シツツアル旨ヲ述ヘ

(二)西田濟南總領事ヨリ大連ヨリ海路「ジャンク」次テ小

蒸汽ニ依リ山東沿岸ニスル密輸カ盛ナリシコト其ノ後

山海關方面ヨリスル密輸カ盛トナリシコト濟南地方ニ

於テ此等密輸品カ抑留セラレタル事例鮮ナカラサルモ

一旦稅關線ヲ通過セル商品ハ密輸品ナリヤ否ヤヲ判斷

シ難シト主張シテ返還ヲ求メ來レルコト等ヲ述フ

(三)西青島總領事ヨリ青島ニ於テハ既ニ冀東密輸ノ影響ニ

依リ青島海關カ稅率ノ適用ヲ緩和スルニ非サレハ自分

等ノ死活ノ問題ナリト爲シ海關襲撃ヲ計畫セル居留民

アル旨ヲ述ヘ

漢口總領事ヨリ漢口ニハ未タ顯著ナル影響ナキ旨ヲ述

ヘ

(四)河相廣東總領事ヨリ香港ヲ中心トスル密輸ノ經路、推

定量等ニ付説明アリ且軍需品トシテ軍用船ニ依リ廣東

又ハ梧州ニ砂糖洋灰鹽等ヲ密輸スル所謂「オフイシャ

ル、スマグリング」ニ付説明アリ

(五)中村福州總領事ハ福建方面ニ台灣ヨリ「ジャンク」ニ

香港ニ輸入セラルル商品ノ八割迄カ廣東廣西ニ轉口セラ

ルル等香港トハ經濟的ニ不可分ノ關係ニ在ルモ政治的ニハ些シタル關係ナシ唯企業方面ニ英國勢力カ加ハリ行クヤ否ヤカ問題ナルヘシ廣東ニ流通スル香港弗紙幣ハ目下ノ所「ミーン・オブ・エクスチェンヂ」ニシテ企業ニ「インヴェスト」セラレ居ル譯ニ非ス

ハ、中村福州總領事報告

胡漢民ノ對外政策ナルモノハ英蘇關係ハ接近シ日蘇關係ハ惡化シ從テ日英關係ハ阻隔スヘシ而テ英佛ハ利實一致スルヲ以テ支那ハ英佛ニ接近スヘシト爲スモノニシテ米蘇トノ接近ハ考ヘ居ラサルカ如シ佛支密約說ノ如キモ此ノ點ヨリモ注意ヲ要スヘシ

陳儀ノ心境對日態度等ニ付報告アリタルカ同總領事ヨリ別紙「福建ノ現狀及我方ノ對福建政策」(未定稿ノ由)提出アリタルヲ以テ茲ニハ省略ス

ハ、密輸問題

次テ時間ノ餘裕ヲ經濟的問題ノ報告ニ用フルコトナリ密輸問題ヨリ始ム

(一)石射上海總領事ヨリ北支ニ密輸セラレタル商品カ鐵道

テ密輸セラルルモノハ石油砂糖海產物カ主ニシテ人絹

其ノ他ノ雜品ハ主トシテ便利屋貿易ニ依リ旨説明アリ

(六)岩井商務官ヨリ滿洲國關稅大連代納中止後密輸カ盛ニ

ナリ次テ銀密輸出ノ歸リトシテ更ニ最近ハ冀東方面ヨ

リ密輸カ盛ニ行ハレ居ル處此等密輸ノ正當業者壓迫、

信用取引ノ破壞ハ寒心ニ堪エサルモノアリ密輸カナク

ナレハ日本品ハ賣レサルカト言ヘハ必スシモ然ラス排

日關稅サヘ除去セラルルニ於テハ日本品ハ正當貿易ニ

依リ進出シ得ヘシトノ趣旨ヲ述フ

(大使ヨリ密輸贊成(獎勵)論ト密輸反對(禁壓)論トア

ルカ如何トノ質問アリ)

(七)石射總領事岩井商務官ハ反對論ヲ述フ

(八)西總領事ハ自分カ赴任前新京ニ行キタル際北支ノ密輸

ハ關東軍ノ獎勵の態度ニ依ルコト大ナルコトヲ認メタ

リ田中隆吉大橋忠一等ハ密輸ニ依リ支那ヲシテ低關稅

政策ヲ餘儀ナクセシムルト共ニ密輸ニ依ル關稅收入減

少ヲ蔣介石政權打倒ノ一手段ト考ヘ居レリト述ヘ

(九)河相總領事ヨリ自分ハ治外法權撤廢前ニ關稅自主權ヲ

得タル支那カ之ヲ濫用シテ高關稅政策ヲ採リタルコト

カ密輸<sup>(密)</sup>撲行ノ根本原因ニシテ密輸ハ低關稅政策誘致手段トシテ利用スヘキモノト考ヘ居レリト述フ  
須磨南京總領事ハ自分ノ考ヘハ河相總領事ノ考ヘニ近キモノナリトテ從來孔財政部長等ヨリ密輸取締協助力申出ニ對スル應酬振等ニ付説明アリ

## 支那貿易ノ將來

(大臣ヨリ支那貿易ノ將來如何、農村疲弊ニ依ル購買力減少ノ程度如何トノ質問アリ)

岩井商務書記官ヨリ生糸ノ増産、茶ノ改良等ニ依リ輸出貿易改善農村購買力回復ノ徵ナキニ非サルモ結局農村ノ購買力回復セサレハ輸入貿易ノ絕對量ハ増加セサルヘシ日本品ノ輸入ハ絕對數ニ於テハ減少シ居ルモ他國品ノ輸入ニ比シ比率的ニハ増加シ居レリ購買力ハ大体往時ノ三分ノ一二減シ居ルモ農作<sup>(農)</sup>力續キ且農產物ヲ市場化シ得レハ購買力ノ回復ハ不可能ニ非スト述ヘ

中村福州總領事ハ福建ノ農村疲弊ハ共匪ノ影響モアリ相當深刻ナルモノアル旨ヲ述フ河相廣東總領事ハ華僑<sup>(僑)</sup>速金ノ減少、生糸貿易ノ不振(十年前ニ比スレハ十分ノ一)、軍費殊ニ武器購入費ノ増大ニ依ル人民ノ負擔増加等カ購

テ酒井參謀ノ活動ニ依リ所謂梅津河<sup>(河)</sup>應欽協定ノ成立ヲ見タリ右協定ニ依リ市省黨部中央軍ノ撤退迄行キ得タル譯ナリ(尤モ平津地方ニ於ケル中央系ノ裏面的策動ハ其ノ後モ皆無ニハ非ス)以上ヲ以テ第一次的工作ト認ムルヲ得ヘシ

其ノ後モ北支ノ政權ハ統一ヲ缺キ之ヲ強化セムトスルニ至レリ此ノ北支政權ノ單一化及強化ヲ第二次工作ト認ムルヲ得ヘシ右工作ハ宋哲元等ノ或ル特定ノ人物ニ關スル問題ニハ非スシテ要スルニ南京トノ關係ヲ離脱シテ事ヲナシ得ル人物トシテ宋哲元ヲ適當ナリト認メ之ヲシテ北支政權ノ強化及單一化ヲ計リタルモノナリ

當初北支五省ノ自治乃至獨立ヲ考ヘ居タル關東軍ハ今猶此ノ考ヘヲ持チ工作シ居ルヤニ認メラルルモ當初自分トシテハ先ツ以テ河北省ヲ單一化セル政權ノ下ニ自治ヲ行ヒ他ノ四省モ漸次之ニ倣ハシムルコト然ルヘシト考ヘ居リ事實此ノ方向ニ進ミツツアリ

今後ノ工作即チ第三次工作ハ單一化セラレタル華北政權ヲ相手ニ建設の事業ヲ行フニアリ建設事業トシテハ高等資本及高等技術ヲ要スル工業ハ我方ノ合辦、出資援助指

買力減少ノ主因ニシテ回復容易ナラサルヘキ旨ヲ述フ  
三浦漢口總領事ハ排日カ止ミタル後モ日本品カ進出スル迄ニハ相當ノ時間ヲ要ス又農村ノ疲弊ハ高價ナル外國品ヨリ廉價ナル日本品ノ需要増加トモナルヘシ故ニ日本品カ現在ヨリ更ニ進出スル餘地ハ皆無ニ非ス

## (付記二)

(昭和十一年四月萩原記)

天津、北平、張家口各公館長ヨリ有田大使ニ對スル報告要旨

昭和十一年三月二十五日歸朝ノ途次天津立寄ノ有田大使ニ對シ川越天津總領事竝ニ來津セル在北平大使館武藤一等書記官及中根張家口領事代理ヨリ各任地ノ實情等ニ付概要左ノ通報アリ

## 川越天津總領事報告要旨

客昭和十年五月以來ノ北支問題ハ支那人新聞社長暗殺ニ端ヲ發シ該事件カ藍衣社系ノ策動ナルコトヲ推定シ得タルヲ以テ之ヲ機會ニ藍衣社、黨部、國民政府系勢力ヲ少クトモ河北ヨリ撤退セシムルコト然ルヘシト認メ主トシ

導ニ依ラシメ鐵道港灣電氣等ハ省政府ヲシテ之ヲ爲サシメ日本カ技術又ハ材料ヲ供給スルヲ主張トスルコト然ルヘシト考ヘ居レリ

(最近ノ日本紡績ノ北支進出長蘆鹽問題等ニ付キテモ說明アリ)

## 武藤書記官報告要旨

(一)武藤書記官ヨリ冀察政權及冀東政權ノ問題ニ付相當詳細説明アリ委細別紙<sup>(別紙)</sup>「冀察政權ニ關スル考察」(在北平大使館作成)參照。要スルニ冀察政權ノ現狀ハ相當不満足ナルモノナルカ結局他ニ之ニ代ルモノナキヲ以テ之ヲ指導シテ盛り立テ行クヲ要スト言フニ在リ

(二)「山西ニ於ケル共匪情況」ニ付キテモ一應ノ報告アリ別紙<sup>(別紙)</sup>北平大使館作成資料參照。大要ハ共匪及山西軍對峙ノ現狀ハ相當永續スヘク最近些シタル局面ノ變化ナキモ新聞ニ依レハ共匪ハ分散シテ便衣隊の出沒ヲナシ居ル様子ニシテ今後綏遠ヲ通リテ外蒙ニ向フヘシトノ說ト東行シテ河北南部ヨリ山東ニ向フヘシトノ說トアリ共匪中央軍乃至東北軍トノ通謀ニ付キテモ種々ノ觀測アリト言フニ在リ(尙有田大使ヨリ本件ニ付磯谷武

官ハ上海出發前自分ニ對シ山西方面ノ共匪ハ二萬トカ言ハレ居ルモ實ハ一万乃至夫レ以下ニ非サト考ヘ居レリ山西ノ共匪ヲ過大ニ宣傳スレハ中央軍山西派兵増兵ノ口實ヲ與フルニ過キスト考ヘ居ル旨ヲ述ヘ居タルカ此ノ點一考ヲ要スヘシト述ヘラル

(二)「北平大使館ノ機構問題」別紙參照

軍側ノ北平特務機關(將官)設置、冀察政權顧問(勅任級)ノ駐平等ノ關係上參事官設置ヲ再檢討スル要アリトノ意見ナリ

(四)其ノ他「山西、内蒙新疆方面ニ對スル外務機關ノ擴充」「北平ニ於ケル内鮮人ニ關スル問題」及「文化事業ニ就テ」ノ書類提出アリ、別紙參照。

三 中根領事代理報告要旨

中根領事代理ヨリ別紙「蒙古及西北邊疆經營ニ關スル意見」(池田書記生稿トアルモ中根領事代理ノ意ニ基クモノナル趣ナリ)ヲ提出アリタル外口頭ヲ以テ李守信軍ノ察東移駐、察哈爾保安隊ノ撤退、百靈廟蒙政會及綏遠蒙政會ノ實情滂江德王軍政府成立ノ經緯等ニ付説明アリ(軍政府成立ノ經緯等ニ付キテハ其ノ後關東軍側ヨリ大

使ニ詳細極秘報告アリタルヲ以テ茲ニハ省略ス)  
尙中根領事代理ヨリ三月二十日附大臣宛館長符號電報ノ件(蒙政會駐平辦事處長包悅卿ノ中根領事代理ニ對スル申出ノ件)ニ付説明アリ(委細右電報及別紙參照)

23 昭和11年3月27日

在上海石射(猪太郎)總領事より  
広田外務大臣宛(電報)

蒋介石の対日態度、対ソ態度および対西南政策に関する齊世英中央政治會議特務秘書の内話について

上海 3月27日午後  
本省 3月27日夜着

第八九號

(1) 二十五日齊世英カ當館中田ニ爲セル時局談中參考トナルヘキ點左ノ通

一、蒋介石ノ奉化行ハ墓參ヲ兼ネ休養ノ爲ニシテ自分ノ知レル所デハ大体一週間ノ豫定ニテ直ニ歸寧スル筈ナリ上海日本新聞ニハ蔣カ開封ニ赴キ宋哲元ト會見セリ云々ノ記事アリシカ餘リニ神經過敏ナリ

二、上海日本新聞ニハ陳果夫又ハ陳立夫カ蘇支密約締結ノ使命ヲ帶ヒテ蘇聯邦ニ赴ケリトノ記事ヲ掲ケ居タルカ陳果夫ハ現ニ鎮江ニアリ陳立夫ハ病氣(心臟病及肺病)ニテ杭州ノ田舎ニ引籠中ナリ兩陳ハ元來共產黨ヲ最憎ミ今日迄陳ノ配下ノ特務隊(日本側ノ所謂CC團)ノ手ニテ逮捕殺戮セラレタル共產黨員多數アリ謂ハハ仇敵ノ仲ナリ陳カ蘇聯邦ニ使スルカ如キコト絕對ニアル筈ナク蔣介石トシテモ共產黨ニハ辛イ目ニ合ハサレ居ル筈ニテ今更蘇聯邦ト提携ヲ策スルカ如キコト考ヘラレス

三、蔣ノ對西南政策ハ武力ニ依ラス飽迄政治的解決ヲ計ラントスルニアリ蔣現在ノ武力ヲ以テスレハ西南派ヲ武力ニ依リ屈服セシムルコトハ左迄難事ニアラス唯支那ノ現狀ハ昔ト異リ國內ニ於テ互ニ武力抗爭ヲ爲スカ如キハ其ノ勝敗ノ如何ニ拘ラス國民ノ信賴ヲ贏チ得ル所以ニアラサルヲ知レルヲ以テ蔣ハ此ノ方法ニ出テサルノミ

胡等元老派カ蔣ノ下風ニ立ツヲ欲セス又廣東實力派カ合作後其ノ地位ヲ失フコトヲ惧レ居ルコト等ノ爲(陳等カ合作ノ條件トシテ絕對ニ其ノ地位ノ保障ヲ要求シ居ルハ笑止ノ至リナリト言ヘリ)南京、廣東ノ合作實現ハ猶前

途相當多難ナルヘシ

(3) 有田大使ノ蔣及張群トノ會見ニ付自分ハ會談ノ内容ニ付テハ聞及ハサルモ必スヤ相互ノ理解ヲ深メタルモノアルヲ信ス自分ハ日本側ニ於テ張ノ外交部長就任後ノ態度ニ付不満ヲ抱キ居ルヤニ聞及ヘルカ蔣介石ノ張ニ對スル信任、張ノ日本ニ對スル理解及張ノ日支關係打開ニ對スル決心ヲ以テシテ猶日本トノ和協ノ途無シトセハ何人カ出ツルモ不可ナリ蔣及張ハ今手ヲ差伸ヘテ日本トノ握手ヲ求メ居レリ日本カ之ヲ握ルヤ否ヤハ日本ノ爲最後ノ「チャンス」ナリ要ハ日本側ニ於テ張カ支那ノ外交部長タル立場ヲ充分了解スルコト肝要ナリト思料ス唐有壬時代ニハ支那ニ外交無シ外交部ハ日本外務省ノ出張所ナリト

言ハレ居レリ現ニ南京ニ於テモ日本ト一戰ヲ交フヘシトノ說ヲ爲ス者相當アリ自分等カ率直ニ其ノ所見ヲ述フレハ直ニ一般ヨリ排撃セラルル狀態ニテ南京ノ對日空氣ハ必スシモ良好ナリト言フヲ得ス云々(出所極秘)

支ヘ轉報シ南京、漢口、廣東ヘ轉電セリ  
漢口ヨリ長沙ヘ暗送アリ度シ

昭和11年3月28日 在滿州国南(次郎)大使より  
 広田外務大臣宛(電報)

関東軍との協議のため有田大使新京滞在延長  
 について

付記 昭和十一年三月二十八、二十九日

有田大使と関東軍首脳との会談要旨

新京 3月28日後発

本省 3月28日夜着

## 第二四五號

有田大使ヨリ

軍側ト會談等ノ都合モアリ一日新京滞在ヲ延ハシ卅日發直  
 行四月一日午後三時廿五分東京着ノコトトセリ  
 奉天、安東、支ヘ轉電セリ

## (付記)

(昭和十一年三月二十九日 萩原記)

有田大使ノ関東軍側トノ會談

一、概要

有田大使昭和十一年三月二十七日夜新京着

二十八日午前南前司令官ヲ又午後植田新司令官ヲ往訪セ  
 ラレ各約一時間大使ノミニテ會談セラル

右ノ外二十八日午後及二十九日午後ノ二回ニ亘リ約二時  
 間宛関東軍參謀長參謀次長以下各參謀ト會見セラレ二十  
 八日ハ軍側ヨリ對蘇關係、外蒙事情、對内蒙工作及對支  
 政策ニ付説明及意見表示スル所アリ大使ハ二三ノ質問ノ  
 外意見ノ開陳ヲ避ケラレタルカ二十九日ニハ對支政策ヲ  
 話題ノ中心トシ大使ヨリモ一應ノ意見ヲ述ヘラレタリ尚  
 二十八日ノ夜宴會後及二十九日右會見後坂垣參謀長ニ對  
 シ相當意見ヲ述ヘラルル所アリタリ

駐支大使ニシテ新京ニ來訪セルモノ初メテナルコト、大  
 使力進ンテ関東軍首脳部トノ會談ヲ希望セラレ且滞在ヲ  
 一日延シテ二回會見セラレタルコト、大使ノ外相就任説  
 モアリ軍側ニテ其ノ所信ヲ開陳シ參考ニ資セムトセルコ  
 ト等ノ爲関東軍ニ於テモ頗ル熱心ニ大使ヲ歡迎シ司令官  
 交送ノ際ニモ拘ラス各參謀出席會談シ大使ニ提出スヘキ  
 資料ノ材料ヲ特ニ準備シ殊ニ軍ノ從來極秘トシ來レル内  
 蒙工作ニ付詳細説明スル所アリタルカ如キ注目ニ値スル  
 モノト認メラレタリ

二、第一回會合(三月二十八日自午後三時至午後五時半)

關東軍側、坂垣參謀長以下

外務省側、大使ノ外在滿大使館守屋參事官及各書記官

並ニ萩原出席

劈頭坂垣參謀長ヨリ別紙「關東軍ノ任務ニ基ク對外諸問  
 題ニ關スル軍ノ意見」ヲ朗讀説明ス

之ニ對シ大使ヨリ在蘇關係ニ付キテハ殆ト全ク所感ヲ同  
 シウスルモ對蘇關係ニ伴ヒ對支政策ヲ如何ニスヘキヤニ  
 付キテハ別ニ意見ヲ有スル旨ヲ述ヘラル

次テ第二課長ヨリ「内蒙古軍政府成立ノ經緯」ニ付説明  
 アリ

大使ヨリ細目ニ付二三質問セラレタル外秘密ナラハ敢テ  
 回答ヲ求ムルモノ非スト前提セラレタル上内蒙ニ對スル  
 工作如何ヲ質問セラル

田中中佐ヨリ内蒙ノ歸趨カ對蘇作戰ノ場合死活ヲ制スル  
 ハ勿論ニ付頗ル重要視シ居ルモ今直チニ内蒙ヲ攻略セム  
 トスルモノニ非ス内蒙工作進展シ内蒙カ我勢力ニ歸スレ  
 ハ内蒙ト内蒙ノ區別明白ナラサルニ付漸次内蒙東南部及  
 南部ヲ歸順セシメ得ヘシトノ趣旨ヲ答フ

尙時間ノ殘餘ヲ利用シ花谷中佐ヨリ滿洲國內部ノ事情殊  
 ニ滿洲國外面の獨立性ト内面的指導關係ニ付説明アリ

三、第二回會合(三月二十九日自午後四時至午後六時)

出席者前日ニ同シ

田中中佐ヨリ「對支政策ノ根本觀念ノ是正ニ關スル意見」  
 ヲ主題トシ相當激烈ナル言調ニテ所見ヲ述フ(同日會合  
 前會談セル萩原ニ田中中佐ノ述ヘタル所ト略同趣旨ニシ  
 テ要スルニ外務省側カ南京ヲ中心トシ折衝シ來ルコト及  
 南京ヲ轉向セシメ得ヘシト考ヘ居ルコトニ對スル非難ニ  
 シテ南京ニハ中支ノ問題以外ヲ交渉スヘカラス南京ニ於  
 テ北支問題ニ付折衝スレハ南京側ニ北支要人切崩シニ利  
 用セラレ北支將領ノ腰ヲグラツカシムト言フニ在ルカ如  
 シ)

有田大使ヨリ之ニ對シ假ニ日本ノ北支ニ於テ求ムル所カ  
 防共施設ノ承認、反滿抗日的行動ノ停止、經濟建設等々  
 ニ在リトシ之ヲ達成スル爲ニハ二ツノ遣リ方アリ一ツハ  
 北支ニ對スル工作ヲ進メ支那ヲ漸次クザリ取ル遣リ方ニ  
 シテ他ハ南京ヲシテ先ツ北支政權カ右各種事項ヲ自主的  
 ニナスコトヲ認メシメタル上ニテ北支政權ヲシテ之ヲナ

サシムル遣り方ナリ對蘇關係ノ切迫ヲ中心トスル國際時局ニ處スルニハ對英對米關係ニ於テモ特殊ノ考慮ヲ要スヘク對支關係ニ於テモ亦右二種ノ遣り方ノ中後者ノ方ヲ可トスヘシ南京從來ノ態度ヨリシテ之ヲ不可能トナス軍側ノ見解ハ一應尤モナルモ此ノ際一定ノ期限ヲ區切り後者ノ方法ヲ試ミ夫レカ成功セサリシ場合前者ニ歸ルモ差支ヘナシト考フル旨ヲ述ヘラル

右ニ對シ田中中佐ハ一定期間ヲ限ルトハ言ヘ到底不可能ナルコトヲ試ミルハ時間ノ空費ナリトテ國民黨成立以來ノ歷史ヲ論シ立テ花谷中佐ヨリ大使ノ御意見ハ一應諒解セルモ軍側トシテハ南京政府ニ對シテハ中支ノ問題以外ヲ交渉セラレサランコトヲ望ムモノナリト述フ引續キ田中花谷ヨリ同趣旨ノコトヲ繰返シタルカ要スルニ「對支政策ノ根本觀念ノ是正ニ關スル意見」ハ軍内部ニモ反對論アルヤモ知レサルモ關東軍トシテ充分研究ヲ盡クシタル結果確信ヲ以テ軍中央部ニ上申中ナルニ付特ト考慮ヲ煩シ度シト言フニ在リ

大使ヨリ右ニ對シ根本觀念ニ付キテハ軍部内ニモ異論アルヘシ恰モ對蘇關係ニ於テ結局一戰スヘシトナス論ト非

## 第一 對蘇問題

對蘇問題ニ關シテハ關東軍ハ最も重大ナル關心ヲ有スル所ナルカ蘇聯邦國防能力ノ年ト共ニ向上シツツアルハ爭フヘカラサル事實トス固ヨリ軍ハ蘇聯邦當局カ世界ニ公表シツツアルカ如キ急速度ノ躍進ヲ遂ケツツアリトハ信スルモノニアラス又其ノ建設カ國家全般ヨリ見テ跛行且荒削りの部分尠カラス速成ノ反面缺陷ヲ藏スルハ疑フヘカラサル所ナリト雖綜合的國力ノ逐次向上シツツアルコトハ否ム可ラサル所ナリ

即チ軍事方面ニ於テハ近時内容ノ充實ト共ニ總兵力カ百四十萬以上ニ達シ劃期的飛躍ヲナスト共ニ之ニ併ヒ兵制編制裝備兵團配置等各部分ニ亘リ理想的形態ニ移リツツアリテ名實共ニ世界大陸軍國タルノ形態内容ヲ備フルニ至レリ

重工業方面ノ發達ハ概ネ豫期ノ程度ニ達シ殊ニ軍需諸品ノ獨立製作可能ナルニ至リ一方輕工業方面ニ於ケル努力ノ結果最近漸ク國民私生活ノ向上ヲ見ントスル域ニ達セリ又國家經濟ノ實質の大宗タル農業ニ於テモ之カ形態ノ社會主義化ハ多大ノ困難ヲ收メツツモ概ネ之ヲ完成セリ

戰論トアルカ如シ然レトモ差當リノ對蘇方針ニ付キテハ國論ノ一致ヲ見ツツアルカ如ク對支關係ニ於テモ假令根本觀念ニ相違アルモ對支政策ノ一致ヲ必要トストノ趣旨ヲ述ヘラル

尙時間ノ餘裕アリタルニ付係參謀ヨリ滿洲國內ノ經濟問題殊ニ經濟開發ノ必要及其ノ方針(滿洲ニ於ケル統制經濟ノ必要ト内地ノ資本主義經濟トノ調整等)移民問題滿鐵改組問題等ニ付説明スル所アリタリ

尙大使ヨリ新聞等ノ質問ニ對シテハ軍ニ一般涉外問題ニ付軍側ヨリ實情及意見ヲ聞キタリト應酬スヘキ旨ヲ述ヘラレ軍側モ之ニ同意セリ

## (別紙)

昭和十一年三月二十八日

關東軍ノ任務ニ基ク對外諸問題ニ關スル軍ノ意見

(有田大使ト懇談席上)

關東軍參謀長

陸軍少將 板垣 征四郎

關東軍ノ任務ニ基ク對外諸問題ニ關スル軍ノ意見

之カタメ多年困苦缺乏ニ惱ミ來レル一般國民亦辛フシテ塗炭ノ苦ヨリ一步ヲ脱シ漸ク一息ツキタルノ情勢ヲ現出セリ、此間政權ノ基礎愈々鞏固トナリ過去ニ於テ未タ曾テ見サル獨裁機能ヲ確立セリ

以上ノ情勢ニ基キ軍トシテ特ニ直接ノ關係ヲ有スル極東ノ事態ヲ觀察スルニ彼ハ極東軍備ノ獨立ヲ公然唱ヘテ人口稀薄物資乏シキ極東地方ニ二十數萬ノ大兵ト飛行機戰車各々千ニ近キ數ヲ備フル外交交通機關ノ整備補給機關ノ充實ニ努メ更ニ之ト共ニ多大ノ經費ト犧牲トヲ拂ヒテ經濟交通ノ開發ニ劃期的努力ヲ傾倒シ以テ獨リ武力的作戰準備ノミナラス廣義ニ亘ル戰爭遂行上ノ獨立性増加ニ勉メツツアリ

此間ニ處シ蘇聯邦ノ對日態度ハ其國力並武力ノ進展ト帝國内外ノ實狀闡明ニ伴ヒ我足許ヲ見透セルカ爲素ヨリ未タ彼ヨリ積極的ニ挑戰スルカ如キ狀態ヲ見スト雖最近ニ於テハ二、三年前ノ消積退嬰の態度トハ大ニ其趣ヲ異ニシ漸次積極硬化シ來レリ例ヘハ昨年以來第三「インター」ノ對外戰略更新セラレ日本ヲ目標トシテ積極的トナリ本來ノ主張如何ニ拘ハラス一切ノ戰爭反對主義者ト協同戰線ヲ執ルニ決シ對支工作ニ於テモ共產主義ヲ表面ヨリ振替スコトナク專

ラ「反ファツシヨ」若ハ反帝國主義ヲ標榜シ必スシモ其地現在ノ社會制度ヲ否認スルコトナク北支ニ於ケル共產軍ノ「スローガン」カ「赤化救國」ヨリ「抗日救國」(國民黨ノスローガント一致ス)ニ變換シアルカ如キ又東部滿洲一帯ニ巨ル匪賊數ハ漸次減少シアリト雖共匪ノミハ依然頑強ニ蟠居シ逐次他ノ匪賊ヲ合セテ却テ強大トナリツツアルカ如キ或ハ國境問題漁業問題其他對滿洲國諸問題(外蒙問題領事館問題等)ニ於テ強硬ナル態度ニ出テアルカ如キ是ナリトス

之ヲ要スルニ蘇聯邦ノ國力ハ年ヲ逐フテ向上シ之ニ伴ヒ近時其對日態度力硬化乃至反抗のトナレル點ハ看過ス可ラサル事實ニシテ未タ彼ヨリ積極のニ戰爭ヲ求メントスルコトナカルヘシト雖近キ將來愈々其積極性ヲ加フヘキハ疑ヲ容レサル所ナリ從テ最近ニ於ケル歐洲情勢動向ニ鑑ミ蘇聯對外力ノ西方牽制ハ其程度ノ期待ヲナシ得サルニアラスト雖其變轉性ニ鑑ミ之ニ全幅ノ信賴ヲ置キテ我政策ヲ緩ニスル能ハス從テ日本トシテハ機ニ先シ萬一ノ際ニ應スル戰爭準備ヲ着々進ムルヲ要スルト共ニ諸懸案ノ解決ニ方リテハ速成ニ焦慮シ或ハ徒ニ實質ノ伴ハサル和平工作ニ努ムルカ

雖妥協讓歩ヲ敢テシテ迄之カ實現ノ必要ナキモノト確信ス

## 二、國境紛爭委員會設置問題

國境紛爭委員會設置問題ハ曩ニ我方ヨリ不戰條約拒否ノ名目トシテ蘇側ニ申出タル事アリトシテ外務省側ニ於テ之カ速成ヲ希望セラルル向多キヤニ仄聞スルモ蘇側ノ領事館問題其他ニ對スル背信の態度ニ鑑ミ敢テ之ヲ墨守スルノ要ナカルヘク元來國境ノ確定セサル所ニ之ヲ設置スルノ無意味ナルハ明ナル所ナルヲ以テ軍トシテハ尠クモ國境確定ト平行シテ設置スルニ非サレハ同意シ得サル所トス

## 三、領事館設置問題

滿蘇同數領事館ノ設置ニ就テハ軍ノ飽ク迄主張スル所ナルト共ニ可成之カ多數ノ設置ヲ希望シアリ從テ將來ニ於テモ多數且同數主義ヲ堅持シ本問題ノ解決ニ努メムトス

四、國境ニ於ケル紛爭問題ニ就テ

金廠沟事件等武力の衝突ノ外越境、不法拉致等ノ小事件ハ最近益々其數ヲ増加シ應接ニ遑アラス

抑々滿洲國ハ中心地帶即チ滿鐵、北鐵ヲ中心トシテ發達

如キハ結局彼ヲシテ却テ愈々我足許ヲ見透カサシメ懸案ノ有利ナル結果ヲ得サルハ勿論和平工作其モノカ却テ紛爭惹起ノ禍因ヲナスニ至ルコトアルヘク即チ帝國トシテハ飽クマテ強硬ナル態度ヲ以テ公正ト信スル主張ハ其實徹ニ努ムルヲ必要トス

附

日滿蘇間ノ諸問題ニ就テ

## 一、國境確定問題

滿蘇兩國間ノ國境ニ就テハ不明確ナル部分尠カラサルノミナラス舊東北政權ノ無力ナリシニ乘シ條約ヲ無視シテ侵入シアルノ疑アル部分又ハ無効ト信セラルル條約ヲ楯ニシテ擴張シアル部分或ハ中洲等ニ於テ全ク所屬不明ノ部分尠カラス之カ確定ハ滿洲國自體ノ完成上等閑ニ附ス可ラサル所ニシテ從來屢々國境確定ニ關シ蘇側ニ申出アリト雖言ヲ左右ニ托シテ之ニ應セス最近紛爭ノ頻發殊ニ武力抗爭ノ發生ニ鑑ミ既存條約ニ基キ既設界標ノ再確認或ハ新設等ニ關シテノミ原則的ニ承諾ノ意ヲ仄スニ至レリ

右ニ對シ軍トシテハ國境確定ノ速ナラム事ヲ望ミアリト

シ漸次邊疆ニ及ヘルモノナルカ故ニ國境地方ニ於テハ人口、文化武力共ニ貧弱ニシテ國境ニ沿ヒ鐵道ヲ有シ之ヲ發展ノ基礎トセル蘇側ト對比スヘクモアラス殊ニ舊東北政權ト「ソ」聯トノ實力的關係ハ「ソ」聯ヲシテ其爲スカ儘ニ委シ對抗ノ處置ヲ講シ得サル實情ニアリタリ從テ從來國境ノ紛爭ハ何等表面化スル所無ク靜寧ナリシカ如シト雖滿洲事變以來日滿兩國ノ國力漸次邊疆ニ及ヒ彼カ非行ヲ看過セサルニ及ヒ漸次紛爭ヲ増加セリ將來國力ノ充實發展ニ伴ヒ「ソ」聯ニシテ其態度ヲ改メサル以上之等ノ問題ハ愈々増加スルモノト覺悟セサルヘカラス

## 二、滿洲國ニ對スル外交指導ニ就テ

對外的ニ滿洲國ノ獨立性ヲ尊重セサル可ラサルハ敢テ謂フヲ俟タサル所之カ爲外交交渉等ノ實施ニ方リテハ努メテ滿洲國ヲ表面ニ立タシムルヲ要ス然ルニ最近國境問題其他ニ就テ見ルニ蘇側ハ努メテ帝國トノ直接交渉ヲ企圖シ滿洲國側トノ交渉ヲ避クルノ風アリ帝國外交官亦動モスレハ之ニ應シテ滿洲國ノ獨立ヲ無視スルノ態度ナキニシモアラス

滿洲國內面指導ニ關シテハ外交ヲモ包含シ軍ノ全責任ヲ

以テ之ニ任シアル所而シテ軍ハ中央ノ方針ニ基キ其外交ヲ處理スヘキヲ以テ蘇側カ事實上ニモ滿洲國ヲ認メサラムトスル傾向ヲ排シ努メテ滿洲國ヲシテ交渉ノ表面ニ立タシメ以テ蘇聯ヲシテ事實上ニ於ケル獨立承認ヲ益々確實鞏固ナラシムル如ク着意スルヲ要ス

## 第二 外蒙問題

外蒙古ハ完全ナル祕密地帯ナリ而シテ此祕密地帯ハ「ツァール」政權時代ニ於テ既ニ其魔手ヲ延ヘテ保護國トナシ革命後「ソヴィエト」政權亦其政策ヲ踏襲シテ之カ懷柔ニ成功シテ今日ニ及ヘリ

東亞大陸ノ地圖ヲ披ケハ一見シテ明ナルカ如ク外蒙ノ關係位置カ今日ノ日滿勢力ニ對シ極東蘇領ト歐蘇トノ連絡線タル西伯利亞鐵道ノ側面掩護ノ地帶トシテ極メテ重要性ヲ有ス從テ若シ外蒙古ニシテ我日滿側ニ合體センカ極東蘇領ノ安全性ハ殆ト根底ヨリ覆サルヘク又萬一ノ際ニ於テハ殆ト戰ハスシテ蘇聯勢力ヲ極東ヨリ後退セシムルコトヲ得ルニ至ルヤモ知ルヘカラス從テ軍ハ所有手段ニ依リ日滿勢力ノ外蒙古ニ對スル擴充ヲ企圖シアリ其第一步トシテ蘇聯ノ意志ノ如何ニ拘ラス外蒙古ヲ一箇ノ獨立國ト見做シ之ト滿洲

火ヲ睹ルヨリ明ナリ

如上ノ見地ニ立チ軍ハ西部內蒙古ニ對シ數年來逐次工作ヲ進メツツアリ其過去及現在ノ情況別冊ノ如ク軍ハ將來更ニ萬難ヲ排シテ工作ノ歩ヲ進ムヘク固キ決意ヲ有ス

## 第四 支那問題

刻下帝國ノ對外政策ノ重點ハ日滿不可分ノ原則ニ基キ滿洲國ヲシテ健全ナル發達ヲ遂ケシムルニ在リ對支對蘇其他一切ノ對外政策ハ擧ケテ此方針ノ下ニ歸一セラレサルヘカラス而シテ此見地ニ基キ靜カニ東亞ノ大勢ヲ觀察スルトキ若シ現狀ヲ以テ推移セハ蘇聯ト帝國トハ早晚必ス衝突スヘキ運命ニ在リ而シテ衝突ノ際ニ於ケル支那ノ向背如何ハ帝國ノ作戰遂行ニ至大ナル影響ヲ及ホスヘキハ識者ヲ待タスシテ明ナル所ナリ

而シテ軍ハ支那ノ現狀ハ遺憾ナラ日蘇開戰ニ際シテハ支那ヲシテ蘇聯ノ友邦タラシムヘキ公算極メテ大ナルモノアリト判斷シアリ蓋シ國民黨ヲ背景トスル現南京政權ハ如何ナル手段ヲ以テスルモ絶對ニ帝國ト親善關係ニ入ル能ハサル本質ヲ有スルト我從來ノ對支政策カ支那及支那民族ノ本質ヲ無視セル抽象の原則ノ樹立ニ終始シ何等實質の成果ヲ獲

國間ニ正當圓滿ナル國交關係ヲ樹立スヘク銳意工作中ニシテ又一方次ニ述ヘントスル西部內蒙古ニ對スル工作ヲ進メテ外蒙古民族ノ懷柔ニ努メツツアリ然レトモ軍ハ日滿議定書ノ精神ニ鑑ミ若シ外蒙古側ニシテ如上ノ穩健ナル我意圖ヲ無視シ蘇聯ト勾結シテ我滿洲國ノ領域ヲ侵スカ如キコトアラハ尺寸ノ地ト雖斷シテ讓ラサル決意ノ下ニ斷乎之ヲ排撃スルノ用意ヲ有ス

## 第三 內蒙問題

西部內蒙古即チ察哈爾、綏遠及其以西ノ地帯ハ帝國ノ大陸政策ノ遂行上重要ナル價值ヲ有ス即チ若シ該地帯ヲ我日滿側ノ勢力下ニ包含センカ積極的ニハ進ンテ同一民族タル外蒙古懷柔ノ根據地タラシムヘク更ニ西スレハ新疆方面ヨリスル蘇聯勢力ノ魔手ヲ封スルト共ニ支那本部ヲシテ陸上ヨリスル蘇聯トノ連絡ヲ遮斷シテ支那大陸ニ對スル第三「インター」ノ企圖ヲ根底ヨリ挫折セシメ得ヘシ又消極的ニハ該地帯ヲシテ滿洲國治安確立ノタメノ赤化防止ノ掩體タラシメ得ヘシ若シ夫レ之ヲ日滿側ノ勢力下ニ置カスシテ自然ノ大勢ニ委センカ外蒙古及新疆ヲ通シテ行ハルル赤化工作ハ極メテ迅速ナル速度ヲ以テ滿洲西方國境ニ迫リ來ルコト

得シ能ハサリシモノニ依ルモノナリ

(南京政權ノ對日親善政策ヲ採用シ得サル理由)

南京政權ノ思想的根據ハ排日ヲ生命トスル國民黨ニシテ財政の根據ハ歐米就中英國勢力ヲ背景トシ日本ノ經濟的勢力ト兩立シ得サル浙江財閥ナリ若シ日本ト親善關係ニ入ラハ其時既ニ南京政權ハ存立ノ意義ヲ失フヘシ

(帝國ノ對支政策カ抽象論ニ終始セル事實)

南京政權カ常ニ日支國交ノ瘤ト稱スル滿洲國ノ獨立ノ承認ニ觸ルルコトナク抽象的ナル三原則確立ノ如キ題目ヲ捕ヘテ國交ノ調整ヲ行ハントスルカ如キ又縱令三原則ヲ確立シ得タリトスルモ單ニ紙上ノ空文ニ止マリ具體的實行方策ニ關シ何等ノ成果案ナキコト之ナリ軍ハ支那ノ現狀ヨリ觀察シ帝國ノ國策タル滿洲國ノ健全ナル發達ト東洋平和確立ノタメニハ其對支政策ノ根本觀念ヲ是正シテ茲ニ國策トシテ新タナル政策ヲ樹立スヘキ秋ニ到達セルモノト判斷シ曩ニ別冊「對支政策根本觀念ノ是正」ナル意見ヲ草シ之ヲ中央ニ具申セリ其要點ハ支那大陸ヲ人文及地文上ノ見地ニ基キ相分立セシメ其分立セル個々ノ地

域ト帝國ト直接相結ヒ帝國ノ國力ニ依リ相分立セル勢力ノ相剋ヲ阻止シ各地域内ニ於ケル平和ノ維持ト民衆ノ經濟的繁榮ヲ圖リ以テ支那ニ於ケル排日ノ根絶ト日滿提携ノ實ヲ舉ケントスルニ在リ軍ハ支那ヲシテ常ニ我友邦タラシムルニハ此政策ヲ遂行スルノ外他ニ手段ナキモノト確信ス又本政策ハ現ニ帝國力行ヒツツアル北支及對蒙工作ヲ更ニ積極的ニ進展セシメンカ概ネ前述ノ成果ヲ收メ得ヘク尠クモ南京政權ヲシテ我ニ反噬セシムルコトヲ不可能ナラシムルヲ得ルニ於テ更ニ然リトス

25 昭和11年4月6日 在漢口三浦(義秋)総領事より  
有田外務大臣宛(電報)

広田三原則に拘泥しないとの有田外相発言に  
関する中国紙論説について

漢口 4月6日後発  
本省 4月7日夜着

第七一號

五日ノ新民報ハ有田新外相カ廣田三原則ニ拘泥セスト言フハ有田外交ノ煙幕彈ニシテ文字ノ刺戟ヲ避ケ實際的掠奪ヲ

重視セルモノナルヲ以テ吾人ハ之カ認識ヲ明カニシテ周到ナル防禦ヲ要スヘキ旨ヲ論シ更ニ六日ノ武漢日報ハ有田外相ノ先ツ以テ行ハント希望スル日支ノ協同防共ノ如キハ廣田三原則中ノ一ニ外ナラス結局有田外相ノ對支方針ナルモノハ廣田三原則ト實質ヲ同シクスルモノニシテ支那ハ如何ナル名義ヲ以テスルモ主權ヲ損傷スルカ如キコトハ斷然拒絶スルノ外ナシト論セリ  
支ヨリ上海ヘ轉報アリタシ  
支、北平、在支各總領事ヘ轉電セリ

26 昭和11年4月12日 在天津川越(茂)総領事より  
有田外務大臣宛(電報)

日中關係調整の先決条件として日本に実行を  
要望する事項を述べた胡適論説について

天津 発  
本省 4月12日後着

特情 天津第一一號

十二日ノ大公報ハ

「中日關係調整ノ先決條件」ト題シ「日本國民ニ告ク」ナ

ル副題ノ下ニ左ノ如キ胡適氏ノ論評ヲ掲ケテ居ル  
廣田外相ニ依ツテ提唱サレタ中日關係調整ノ要望ハ最近新聞紙上ノ流行語トナツテ居ルカ廣田外相要望ノ意義ニ關シテハ未タ正確ナ解釋サヘ與ヘラレテ居ナイ依ツテ余ハ一中國國民ノ立場カラ解説スル即チ中日關係ノ調整ヲ求ムル所以ハ茲四、五年來釀成サレタ情勢カ實ニ仇恨ノ情勢テアルカラテアル之ヲ簡單ニ言ヘハ日本ノ支那ニ對スル無制限ノ侵略及忍ビ難キ優越感カ中國ノ日本ヲ仇恨スル情勢ヲ作ツタモノテアル此ノ仇恨ノ心理ハ一日ニシテ解消サレス中日關係亦一日ニシテ調整サレナイ合作ヤ親善ハ勿論タ故ニ中日關係調整ヲ可能ナラシメル唯一ノ方法ハ此ノ仇恨ノ情勢ヲ解消シ近キ將來ニ於テ漸次合作ト親善ノ地歩ヲ作ルニアナルコトヲ深く信スル更ニ廣田外相ハ中日關係調整ノ先決條件トシテ所謂三原則ノ同意ヲ要求シテ居ル一月二十七日外交部公布ニ依レハ右三原則ハ

一、以夷制夷政策ノ拋棄  
二、滿洲國ノ事實的存在ノ尊重  
三、華北ニ於ケル中日共同赤化防止

テアリ外交部ハ既ニ同日正式ニ不承認ヲ聲明シテ居ルカ我々ハ國民ノ立場ヨリ右ニ對スル態度ヲ率直ニ表明シ日本政府及國民ニ率直ニ告ケル即チ廣田三原則ハ中日仇恨ヲ増進スル條件テアリ中日關係調整ノ先決條件デハナイ以夷制夷トハ友誼的國家ト連絡シ敵對的國家ヨリ防衛スルコトテ素ヨリ一切獨立國家ノ自衛權ノ一テアル日本カ若シ中國ノ友誼ヲ得ント欲スルナラハ宜敷ク中國人心カ悅服シテ日本カ中國ノ友邦タルコトヲ承認スルヨウ努力スヘキタ日本ハ最容易ニ光榮ノ孤立ヲ懲慝サレルカ我中國トシテハ現在ノ所決シテ孤立ヲ願ハナイ滿洲國ノ創設ハ中日仇恨ノ一重要原因テアリ此ノ偽國存在ノ承認ヲ中國ニ迫ルコトハ當然仇恨ヲ増ス結果トナルノミタ共同防共問題ハ其ノ背後ノ用意ノ如何ヲ問ハス是亦全國人民心理ノ決シテ容認シ得ナイモノテアル今日日本軍人ノ提唱スル華北共同防共ノ要望ハ唯中國人民ノ日本ヲ仇嫌スル心理ヲ増スノミテ却ツテ一般人民ノ共產黨ニ對スル同情ヲ増加セシムルタラウ中日關係ノ調整ハ中日間ノ仇恨情勢ヲ解消スルコトカ必須的基本原則テアル日本ハ中國政府ニ迫ツテ一切ノ排日の行爲ト排日の言論ヲ禁止セシメタ中國政府モ亦其ノ力ノ能フ限り排日ノ禁止

ヲ爲シタト云ヒ得ル現在中國人ハ日貨ヲ排斥シ得ナイ又排  
日議論ヲ發表シ得ナイ然シ此ノ仇恨ノ情勢ハ一日ト激化  
シ些モ減シナイコトハ明達ノ士ノ能ク了解スル所テアル其  
ノ理由ハ仇恨解消ノ鍵ハ中國政府人民ノ手ニハ無ク日本政  
府軍部ノ手中ニアルカラテアル日本カ此ノ鍵ヲ敢テ用ヒヨ  
ウトシナイ爲不幸ニモ此ノ仇恨ノ情勢ハ火ニ油ヲ注ク計リ  
テ釜底ノ焚木ヲ取ルニハ至ラナイ我々ハ中國國民ノ立場カ  
ラ我々カ認メル中日關係調整ノ先決條件ヲ率直ニ提出シヨ  
ウト思フ若シ日本政府領袖ニシテ中日關係調整ニ對シ誠意  
カアルナラハ日本ハ必ス率先シテ次ノ諸項ヲ實行スヘキ  
テアルコトヲ吾人ハ深ク信スル

一、塘沽停戰協定ノ廢止、非戰區域ノ取消

二、所謂梅津何應欽協定無効ノ宣言

三、日本政府ハ自動的ニ天津條約及附屬議定書規定ノ平津鐵  
道地帶駐兵權ヲ拋棄ス日本大使館ノ南遷後日本駐屯軍ハ  
全部撤退歸國シ天津條約調印國ノ主唱國トナル

四、昨年六月ノ察東協定ノ無効及察哈爾省內滿洲國軍隊ノ撤  
退宣言

五、華北各省及福建省內ニ於ケル一切ノ偽自治運動ヲ禁止ス

六、日本政府ハ自動的ニ中國領土內ノ領事裁判權ヲ取消シ歐  
米各國ノ主唱國トナル

七、外交ヲ統一シ日本政府ヨリ兩國ノ正式外交全權代表ノ調  
印セル文書ニアラサル一切ノモノノ完全ナル無効ヲ宣言  
ス

我々ハ以上ノ諸項實施コソ中日關係調整ノ先決條件ナルコ  
トヲ固ク信スル是等ノ條件ハ中日問題ノ根本的解決ニハ未  
タ不充分テハアルカ中日外交上一轉機ヲ劃シ一條ノ進路ヲ  
打開シ消極的ニハ尠クモ中日兩國ノ關係ヨリ以上惡化セ  
シメス積極的ニハ少カラサル仇恨ヲ解消シ兩國間ノ新ラシ  
イ關係ヲ樹立スル路ヲ打開スルモノナルコトヲ深ク信スル  
若シ日本ノ政治家カ今日猶我々兩國民族ノ關係カ日々惡化  
ノ傾向ヲ辿ルコトヲ認識セス又日本ノ政府及國民カ僅ナル  
釜底抽薪ノ努力ヲ爲サス又日本政府軍部カ今日猶中日關係  
ノ調整ハ唯中國側ノ屈服ニアルノミトノ夢想ヲ懷イテ居ル  
ナラハ中日兩國ノ關係ハ調整ノ方法無ク唯人々ハ同文同種  
相屠殺スル反響ヲ演スル準備ヲ爲スノミテアル

## 2 「對支實行策」の策定

27 昭和11年4月13日

在南京須磨總領事より  
有田外務大臣宛(電報)

華北における日中防共軍事協定を協議するた

め吳震脩訪日について

付記一 昭和十一年四月十三日付、東亞局第一課作成

「對支政策ニ關シ軍關係官ト會談ノ件(一)」

二 昭和十一年五月二日付、在南京須磨總領事作成

「須磨總領事喜多武官會談要領」

南京 4月13日夜発

本省 4月13日夜着

第三一五號

往電第三一二號ニ關シ

一、吳震脩等ノ内話ニ依レハ蔣介石ハ日滿軍事協定ヲ眞似テ  
外蒙ニ於ケル自己ノ地位ヲ固メントシ今回ノ議定書トナ  
リタルモノナレハ遠カラス日蘇間ニハ容易ナラサル形勢  
ヲ見ルヘキ處幾多曲折ハアルヘキモ結局支那ハ日本ト結  
フノ外無キ事情日露戰役直後ト異ラサルカ故ニ冀察綏三

省ニ關シ政治經濟ノコトハ別トシ不取敢日支間ニ共同防  
共ノ爲軍事的協定ヲ結フノ外無シト決心シタルカ如ク現  
ニ吳ハ自然問題カ北支軍事ニ局限セラルヘキニ鑑ミ今  
回ノ日本行ニ際シ兩宮武官ノ同行ヲ求メタル點ニ見ルモ  
蔣介石、張群等モ餘程眞劍ナリト察セラル

二、他面支那側ハ蘇蒙協定書ニ關シ抗議ハ出スモ實力伴ハス  
從テ其ノ内ニハ一般ヨリ無能ヲ詰問セラルコトトモナ  
ルヘク且孫科ノ本官ニ對スル口吻ヨリスルモ(往電第三  
〇五號)宋哲元ハ胡漢民代表者ト稱スルオオキブンナル  
者及陳中孚ヲ通シ西南側ト餘程ノ聯繫ヲ有シ居ル點ハ蔣  
等ノ頭痛ノ種ニシテ

今日議定書ノ波紋ノ收拾一步ヲ誤マラハ退引ナラサル反  
蔣運動ニモ展開セラルヘキ形勢アルニ鑑ミ又北支駐屯軍  
増進ノ如キモ結局右ノ形勢ヲ助長スルモノト見早キニ及  
ンテ手當ヲ爲サントセルモノノ如シ

三、黃郭ハ王克敏問題(往電第三〇六號)等ノ爲蔣介石トノ關  
係薄ラキ居リ又李擇一ハ試驗濟ニモアリ從來日支折衝ニ  
當ラシメントセルモ(現ニ陳介ノ前ニ外交次長ノ話アリ  
シモ斷レリ)私事ノ爲固辭シ居タル吳震脩ヲ引出スニ至